

かに
KANI



表紙のことば

癌と云う病気の概念がはっきりしたのは、19世紀中葉以後の事であるが、癌と云う言葉自体は、東西ともに古くから行なわれている。英仏語のCancerは、ラテン語のままで、蟹の意味を兼ねている。そして、このラテン語はまたギリシャ語のカルキノスから来ている。2,400年前のギリシャのヒポクラテスは、すでに病気としてのカルキノスの特徴を書き記したと云う。西紀200年に死んだローマの医師ガレノスは、カンケルを「時に潰瘍を伴う悪性の極めて硬い腫瘍」と定義した。蟹の字をこう云う病気の名にしたのは、昔から珍しくない乳癌の恰好が、蟹を連想させたからであろう。赤黒い、凹凸のある、醜いその外觀は、まさに蟹の甲羅そのものだが、腋の下の淋巴腺まで病気が拡がり、しかも、その間を繋ぐ、淋巴管までおかされた、乳癌の末期の姿は、蟹の鉗やその足の節々をさえ、連想させる。

一方癌の字は、中野操氏の考証によれば、南宋の医書にすでに用いられているそうだ。病だれの中の品山は岩石の意味で、やはり皮膚癌や乳癌の外觀からの表徴文字と察せられるが、この字は癌の組織の持つ大きな他の特徴——他の組織と比較にならぬ程、堅い性質——まで表示し得て、妙である。

表紙の絵は「がざみ」と呼ばれる「わたりがに」の一種で、太平洋岸の日本近海に普通の、食用蟹の一つである。海底の砂に巧にもぐり込み、しかも、海を渡って遠くにまで行く。癌の持つ周囲組織へのもぐりこみ（浸潤）や、方々への飛び火（転移）は、この蟹の性癖で巧に表現されている。

題字の達筆は藤井理事長の揮毫である。編集部の苦心の作と察せられるこの加印は、草書では「かに」となる。仁術に加えるもう一つのもの——一般人の理解と協力——なくしては、癌撲滅の大目的は達成し得られない事を、言外にうたっているものと云えようか。蟹の周囲のあみ目の一つ一つは癌の細胞である。

(久留 勝)

加仁 第12号 目次

卷頭言

戦争の感傷 長沼 弘毅 2

中原和郎 国立がんセンター総長 逝去 6

隨 想

かにの横穴 渡辺 漸 8

座 談 会

国立がんセンター

歴代運営部長 大いに語る

小林 治人, 相良 貞直, 山形 操六

小西 宏, 石戸 利貞, 松浦 十四郎

林 弘, 島田 晋, 市川 平三郎 12

冬瓜の記

“癌 まけてたまるか” の出版によせて 田沼 顯竜 33

あしおと

ホルモン療法への英国医学者の寄与 熊岡 爭一 36

(ガイズ病院の医師達を中心に)

横 顔

石本しげる 41

質問コーナー

食道がん 44

ニ ュ ー ズ

ご寄附芳名録 56

財団法人がん研究振興会役員, 評議員名簿

あとがき, 編集同人名簿

- ◆ 表紙絵解説 久留 勝
- ◆ 表紙構成 長尾みのる
- ◆ カット 山田喬, 関谷猪二



戦争の感傷

長沼弘毅



昭和十四年の九月頃、ぼくは、興亜院書記官に任じられ、廣東の地に、駐在することとなつた。前年十月に、日本軍が入城した直後、大蔵省から出張を命じられて、いた経験を買われたためである。その頃は、南支那に経験のある文官が、絶無に近かつたので、いざ人選となると、否も応もなかつたのである。

支那家屋を改造した日本旅館の一室に落ち着いてはみたものの、後続してやつて来る十五人ほどの部下を泊めておくところもないで、それを搜すのが、ひと苦勞だったが、廣東語がしゃべれないで、どうにも動きがつかなかつた。陸、海軍の嘱託をしていたので、なんとか英語を話せる女性——つまり秘書である——はいないかと、あちらこちらに頼み込んでいた。すると一週間ほどして、海軍特務部（陸軍の陸務機関に相当するもの）から、ある妙齢の美人を紹介されたので、一応、面会のうえ、飛びつくようにして、採用してし

まつた。

その名を張恵美という。支那の中将クラスの将軍の第三夫人の娘——腹違いの姉妹が、二十六人いるという。二十五歳。香港のミッショントスクールのカレッジ部の特待生であった。英語はペラペラだし、教養は豊かだし、家の生活は困らない。諸事万端、気がつくし、容姿は端麗、機密の書類を身辺においているが、こちらの生活との間には、ちゃんと一線を画していて、出しゃばったり、不当に立ち入ったりするふうは、微塵もない。

——君ほどの女性が、なんで、日本人の秘書などになるのか？

——こういうご時世に、徒らに遊んでいる（彼女は「無為徒食」といった）のは、勿体ない。体裁の悪くない智的な職業につきたいと、かねてから考えていた。敗戦の支那側に適當な職業はない。

そんなこんなで、毎朝、ぼくの宿に日勤し、夕方、たまに食事の相手をするが、そのほかの日は、さっさと帰ってしまう。黄包車（人力車）で通えるのだから、家は、そう遠いはずがない。だが、家の内部の事情といえば、母親と阿媽（女中）との三人暮らし、というだけで、一切ふれたことがない。

ぼくの部屋は、二階にあり、下をみると、左側には、厚い土塀があり、その向う側には、支那の兵隊が、日本人将校の訓練を受けていい。「気をつけ」、「右向け右」「曲れ右」「捧げ銃」——といったふうな、日本語の号令が、朝夕、聞こえて来る。そしてその土塀には、肉太の大きな字で「大東亜建設」と書かれていた。

前面は、百坪ぐらいの空地になつていて、毎朝二時間ほど、家鴨の籬の大群が、ぴよ・ぴよと声をあげながら、一人の少年の鞭むちに追わされてやって来る。ときどき、その少年が、鞭を、ひゅっとひと振りすると、その大群は、風に靡くように、さあっと、風下のほうに走ってゆく。まことに一糸乱れぬ、みごとな光景（？）である。

張恵美は、毎朝、じっと、左側の兵隊をみ、また、前面の家鴨の大群をみて、なにか、感慨を催しているようであった。

ある朝、ぼくは、彼女に聞いた。

——君は、なにか考えごとをしているらしいが、一体、なにを考えているのだい？
しばらくして、彼女は、おもい切つたように、きつと、その紅潮した顔をあげ、驚くべきことをいった。

——先生、この土壠には、「大東亜建設」と書かれていますわね。これ、どういう意味なのでしょう？

——ほんとうに、大東亜建設なんて、できるんでしょうか？

——わたしの父は、なん万といふ兵を率いて、日本軍の敵側で、働いています。日に夜に、日本軍に、いじめ抜かれています。建設って、一体、なにを建設するのでしょうか？

——いま、この部屋の下のほうには、びよ・びよいって、子供の鞭に追いまわされるいの家鴨がいますわね。育てるために子供が、餌を撒いてくれていますが、食べ頃になると、料理屋に売られ、Wild Duck on Toast という料理にされ、人間に食べられてしまうのです。餌は、その味をよくするだけのためなんです。

——ところで、土壠の向う側の兵隊は、この家鴨に似てはいませんこと？

——一定のところまで、育てられたら、日本軍に前線にかり出され、おなじ民族の人間と戦わされ、いつ死ぬかわからないのです。

——あの兵隊たちも、いまは、日本人から、いろいろの餌をもらつてはいますが、それは、自分たちの命の代償の前払いをもらつているようなものなのです。
ぼくは、これを聞いて、なんとも返事のしようがなかつた。

——だから、この戦争なんてものを、早くやめなくてはいけないってわけだね？

——その通りですわ。わたしの父も戦争をする軍人ですが、これは悲しいことです。わたしが、軍人の娘に生まれたことも、一つの運命なんでしょうね。

——だが、現在のぼくと君は、敵味方ではないね。ある程度まで、お互いに理解し合っている。日本と支那は、戦争している。ところが、日本人のぼくと支那人の君は、いま、平和に仕事をしている。これは、どういうことなのかね？

——さあ、そうなると、ずいぶん、むづかしい問題になりますわね。わたしも、いま、すぐは、なんといってよいか、わかりませんわ。

——ぼくにも、なんともいえない。しかし、そんなことは別として、まあ、しばらくの間、お互いの人間をみ詰めて、いろいろじゃないか。ぼくが、悪い人間だとおもつたら、いつ暇ひまをとつてもいいよ。

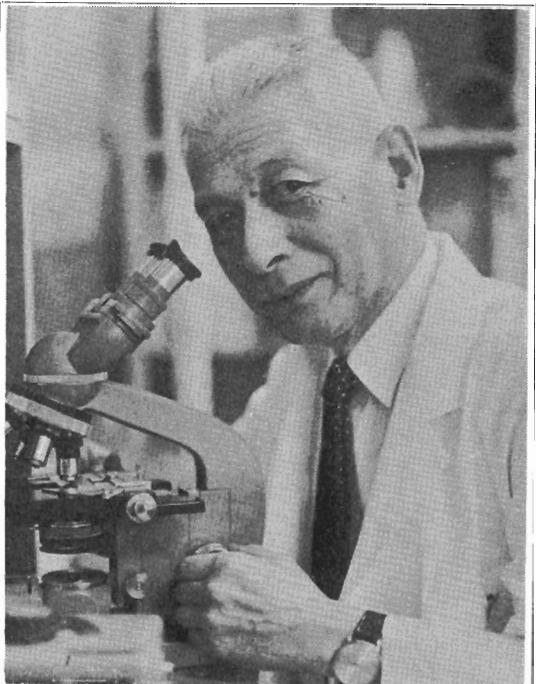
こんなことしか、ぼくには、いえなかつた。

そのとき、ふと、ぼくの脳裡をかすめたことがある。

——いま、日本軍は、破竹の勢いで勝ちすんでる。しかし、いつ、負けるかわかりはしない。そうなつたとき、この娘は、一体、ぼくに、なんということであろう？
反省か？そこまではいい切れない。唐突のおもいつきにすぎないので。しかし、この張恵美のいいぶんは、ぼくに、なにかを深く考えさせるものがあつた。

星移り物変わり、日本は敗戦国になってしまった。南支那廣東でかわした会話が、いまになつて、まさまさとおもい出される。これは、ぼくの戦争についての感傷の一齣ひとこまであるか？

■ 中原和郎国立がんセンター総長逝去 ■



国立がんセンター総長中原和郎（なかはら・わろう）博士は病気療養中のところ、昭和五十一年一月二十一日午前五時四十二分、国立がんセンター病院にて、心筋硬塞のために永眠された。七十九歳。

同日午後六時八時、国立がんセンター第一、第二講義室にて、御通夜。

本葬は、二月四日、青山葬儀所にて国立がんセンター葬として盛大に執り行われた。なお、本葬に先立ち、生前の顯著な功績に対し、従三位勲一等瑞宝章が授けられた。

明治二十九年、日本で最初に冷凍食品事業を興した中原孝太氏の長男として鳥取県に生まれ、大正七年米国コネル大卒。ここで生物学を学び、細胞についての論文が認められてロックフェラー医学研究所に入り、以来、がん研究を生涯の仕事と決めた。昭和九年癌研究会に入り、同研究所長を経て、三十七年國立がんセンターが設立されるとともに初代研究所長。一昨年、がんで倒れた故塚本憲甫

総長の跡を継いで五代目総長に就任。四十年日本学士院賞受賞、四十九年同院会員に選ばれた。

学生時代から、4NQOなど化学物質によつて、がんができる過程の解明に努力、さらにはがん細胞が放出する毒素トキソホルモンの抽出に成功してがんの本体に迫り、がん研究に新面を開くとともに国際的にも高く評価された。発表した論文などは約三百編にのぼり、「研究こそ生きがい」を口ぐせとする“研究の虫”で、「がん患者の残された寿命を三倍に延ばすこと」を当面の目標としていた。又世界的にチョウの収集家としても有名。ドロシイ夫人とは滞米中の恋愛結婚だった。

本誌では、次号に故中原和郎総長と特に関係の深い方がたの追悼文をいただき先生を偲びたいと計画しております。

隨想

続

渡

辺

漸



本誌の創刊号に「かにの横穴」と題する隨想を書いてから最早七年も経つた。当時は新幹線も新大阪までであったが、その後数年で岡山まで開通し、昨年の三月からは博多まで完成して利用度が極めて高いとの事である。

岡山まで開通した後で新大阪と岡山との間のトンネルの名称を新たに付加しなければならないと予てから考へていたが、新幹線を利用する機会も、以前とは異つて少くなり、殊に新大阪以西では更にその回数も少くて、トンネルの名称についても具体的に調べたのは数回に止まつている。

従つてその正鴻を期するにはまだまだ時日が掛るものと思はれた。

ところが一昨年の暮に「こだま」から乗換へる際に新横浜の横浜線のホームの売店で、たまたま「新幹線タイムマップ」なる冊子を発見した。

早速一部買い求め調べて見ると、東京

から新大阪を経て岡山までの新幹線に關する様々なデータが書かれており、線路のカーブの曲線率とか、沿線での特定の地点の標高とか、鉄橋の名称その長さとかが記載されている。勿論当方が知り度く思つてはいるトンネルの名称、更にその長さまでが一目瞭然として分る。

これを参照して、本誌の創刊号に書いたものと比較して、その誤まっていた点を先づ訂正して置きたい。「万騎去」とあるのは「万騎原」であつてこれは誤植であり、小生の字が書き方が悪いためである。「出縄第一」とあるのは出縄の次に点があるべきで第一は次の生沢にかかるのである。「米船山」とあるのは明かな誤りで「米神山」であるべきである。「泉越」と「城山」とは順が逆になるべきで且つ「城山」は「城堀」が正しい。「蘭川」はこれまで原稿がよくない為の誤植で「菊川」である。

尚このマップには第一・第二・大和と大高の三つのトンネルが脱落している。何がある。

れも極めて短かく、口道等の下を潜つているものであるので意識的に省いたやうにも考へられる。

さて新大阪から岡山まではこのマップにより、更に小生の調べた所と二十万分の一の地形図とを参照すると、新大阪から新神戸までに六甲、新神戸から西明石

までに神戸、須磨、奥谷、高塚山、長坂の五つを数へるが、それから姫路までは一つもない。姫路を過ぎるとまた多くな

り、西庄、京見山、檀特山、立岡山、黍田、第一・第二・第三原、那波野の九つが相生までにあり、相生から、宮山、相生、赤穂、大津、帆坂、蕃山、天神山、伊里、第一・第二片上、不老山、第一・第二吉井、妙見山、小坂山、山王山と岡山まで十六を数へる。従つて新大阪から岡山までは総数三十一となる。

前記の「マップ」には第一・第二・第

道の技師長の瀧山養君の事であり、同君とは東大の山岳部以来の長年の知己でもあり、最近は銀座ロータリー・クラブで毎週顔を合はすので、依頼した処早速詳

載されていない。

困り果てた末に思いついたのが国有鉄道の技師長の瀧山養君の事であり、同君とは東大の山岳部以来の長年の知己でもあり、最近は銀座ロータリー・クラブで毎週顔を合はすので、依頼した処早速詳しく述べて頂いた。

これによるトントンネルの名称や長さだけでなくトンネル内の勾配やその斜径、



海拔の標高その他随分と詳しく図示されているし、また別表にはその着手、貫通の年月日が貫通順位に書かれている。

以下その資料によつて記して見たい。

岡山から新倉敷までには倉敷、浅原、酒

津、第一・第二・第三・第四船穂の七つ

があり、新倉敷から福山までは八重、金

光、第一・第二鴨方、今立、笠岡、金浦、

明知、竹之内の九つがあげられる。福山

から三原まで坂部、福山、第一・第二松

永、馬場、尾道、備後の七つがあり、三

原から広島まで頼金、宮組、姫草、加登、

吉行山、古高山、第一・第二高山、本郷、

新庄、第一・第二田万里、堀坂、竹原、

安芸、府中の二十六がある。広島から新

岩国まで己斐、五日市、廿日市、大野、

大竹、岩国、吉市の七つがあり、新岩国

から徳山まで第一・第二神之内、新歓明

路、野口、谷津、第一・第二玖珂、第一

・第二米川、周東、大崎、樋口山、坪坂、

第一・第二勝間、第一・第二・第三久保、

下松の十九の多きを数へ、徳山から小郡

まで柏崎、中野、二本松、佐山、第一・第二赤岸と十五あり、小郡から新下関まで柏崎、中野、二本松、佐山、第一・第二黒見山、瓜生野、峠山、法師丸、原、船木、第一・第二荒草、厚狭、飯野山、上福田、埴生、中村、山田、勝山、石原と二十一と短かいものが多いが、数も多い。新下関から小倉までは僅か一つであるが世界第二の一八、七一三米の新閻門トンネルがある。小倉から終点の博多までは北九州、石坂、鞍手、長谷、室木、四部、稻光、福岡、久山の九つがあり、岡山から博多まで實に百十一のトンネルが数へられる。

従つて東京から新大阪まで六十六、新大阪から岡山まで三十一と併せると総計二百八のトンネルがある。東京から博多まで新幹線で一〇六九・一九キロあるので、五キロに一つの割合でトンネルがある事となる。

またトンネルの占める距離は東京—博間ではトンネルは五—五キロ中六七キロで一三%を占むるに過ぎないが、新大阪—博多間では全長五五四キロ中二八三キロで五一%で、半分はトンネルである。新大阪から岡山まではトンネルは全長の三六%だが、岡山から博多は五七%に及んでいる。

以上述べ來たったところを振返へつて見ると考へさせられる節々がある。

東京から新大阪まではいはば実験を繰り返へしたやうなものであつて、時間も掛かり種々の憶い出も附隨している。新大阪から岡山までは主として文献により調査したのであつて、実験に相当する部分は

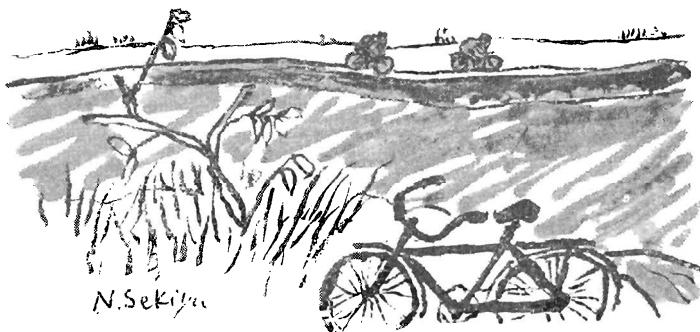
多い点があり、稍々不安が残る。岡山から先は完全な情報に基づいているので、実

際には一度も調査したわけではないが略々満足出来る。然し実態を自ら経験していないので何となく物足らないやうな気

がする。勿論時間も掛つておらず直ぐに判つてしまつた。

我々が実験を行う場合に文献があるのにそれを見落す場合があり、残りは文献として公表されていないが、立派な資料なり情報が得られる場合もある。そうした努力をしたいために、徒らに時日や経費を無駄にするやうな結果を招く事がある。然しちまたこうした文献なり情報だけでのデータと言うものは、何となくもの頗りないものである事も認めざるを得ない。遠くに過ぎ去つた日に、苦労して東京から新大阪までのトンネルをその名前と共に数へ上げた憶い出が懐しく回顧される。まだ未知の岡山からの先のトンネルは、強烈に印象づけられず終はつてしまふやうな気がしてならない。

(国立がんセンター研究所病理部長)



座談会

国立がんセンター

歴代運営部長大いに語る

出席者

初代 運営部長 小林 治人

國立療養所東京病院附属
リハビリテーション学院副学院長

七代 林

厚生省近畿地方医務局長

弘

六代 松浦 十四郎

厚生省環境衛生局長

二代 相良 貞直

財団法人日本対ガン協会参与

司会 島田 晋
(八代)現 国立がんセンター運営部長

編集部

市川 平三郎

国立がんセンター病院長

三代 山形 操六

日本医師会事務局長

四代 小西 宏

厚生省社会保険審査会委員

五代 石戸 利貞

相互生物医学研究所(BML)所長



島田 今日は、まず最初に何か強烈に印象に残っているようなお話をしていただいて、その後これから国立がんセンターがどのようなビジョンと言いますか、夢と言いますか、そういうふうなものが持つていいたら良いか、歴代の運営部長さん方にそれぞれのお立場からお話ししていただきたいと思います。

まず、初代の小林先生からお願い致します。

国立がんセンター

設立の経緯

小林 私、その頃北海道の衛生部長をしておりまして、昭和三十七年二月一日の発令で来たわけです。

発足時は、田宮猛雄先生が総長、それから久留勝先生が病院長という事で、研究所長はまだちょっと人選がもたついていたような感じで、中原和郎先生に決つ



座談会風景

たのは五月になつてからだつたと思います。それで、さつきもちょっとその最初の頃の建物の配置図がないだろうかと思つて庶務課の人を探してもらつたりしたのです。というのは、最初の時に田宮総長、それから久留病院長、その最高幹部の入つていた小さなパラックがありまして、それは今度新しく出来た病棟の建物の位置になるのですが、そこで国立がんセンタースタートの人事であるとか、或いは建物の整備とかいうような事を毎日取り上げて、私もそこに毎日行つては、色々やりましたので、あの当時の建物の配置図でも見ればもっと十四年前の実感が湧くかなと思ったんですが……。

建物は、三十七年二月にスタートする時に新しく出来ている建物としては、治療棟と言つていた一階が放射線関係で二階が手術室という、あの建物だけだったわけです。後は全部もとの海軍の軍医学校と、都立築地病院時代の建物で、それとその後米軍が病院に使つた、その時に付設して建てた建物が、これが現在の図



小林先生

時に必要な建物の整備を進めてゆくといふ事で、今言いました裏門の近くのプレハブの仮小屋で毎日色々そういう事についての相談や決定をしておったというのが三十七年の二月、三月、四月といった赤いじゅうたんを敷いたりしたままで、全体としては薄暗いおばけ屋敷のような建物があつたわけです。そのほかに、看護婦宿舎かなんか、木造二階建の物がゴタゴタと敷地内一杯に建ち並んで、空地としては裏門の所のテニスコート二面位のものでした。そういうのをこれからどういうふうにして整理していくか。一方で職員、ことに技師を集めて病院の診療の開始、それから開所式をいつ頃やるかというような事が……。

そういう主要な職員の人集めをしながら

らスタートの設定をしていく、それと同じく必要な建物の整備を進めてゆくといふ事で、既に出来上がつた大先生が三十七年の二月、三月、四月といったハブの仮小屋で毎日色々そういう事についての相談や決定をしておったというのが三十七年の二月、三月、四月といった大きな建物がありまして、中はまだ書館のあたりにキャバレーと称して、木造の大きな建物がありました。赤いじゅうたんを敷いたりしたままで、全体としては薄暗いおばけ屋敷のような建物があつたわけです。そのほかに、看護婦宿舎かなんか、木造二階建の物がゴタゴタと敷地内一杯に建ち並んで、空地としては裏門の所のテニスコート二面位のものでした。そういうのをこれからどういうふうにして整理していくか。一方で職員、ことに技師を集めて病院の診療の開始、それから開所式をいつ頃やるかというような事が……。

院長の基本的な考え方であつたと思いますね。ですから、そういう方針で全国の各大学や研究所から推薦を受けながら人選が進められたという事で、これは非常に正しかったと思っております。

島田 スタートした頃の一番苦労されたと言いますか、皆さん方が、もつとも力をいたした事は何でしょうか。やはり人を集めでしようか。

小林 そうですね。さああたり診療を担当する幹部のドクターを集め、そしていつ頃診療を開始するかというのを当面の一つの目標でした。五月に診療開始、六月に開所式という大まかな、一応

院長の基本的な考え方であつたと思いますね。ですから、そういう方針で全国の各大学や研究所から推薦を受けながら人選が進められたという事で、これは非常に正しかったと思っております。

スタートの時の青写真

島田 これは初代の運営部長さんのみならず、歴代の部長さん方からもお聞き協議をされていました事では勿論あると思いますが、大体卒業後十五年前後位のところを主力として集めるというような見当だつたと思います。その見当のドクター立がんセンターの設置という事が考えら

れた時点で、一万坪の敷地にたまたま古いけれどもそういう建物があつたからそれを利用するというのではなくて、何か初めに将来を見通した青写真はなかつたんでしようか。どの部分に素晴らしい病棟を造るとか、どこに素晴らしい近代的な研究所を設置するとかいうような、そういう青写真と言いますか、そういういた計画は当初にはどのようになつていたのでしょうか。

小林 それは確かに問題であつて、こんな古臭い建物であり、どちらやがちやしあつた所が適當といえるかという事は確かにあつたわけです。ですが、結局予算問題とか何とかいう事で、これは大体厚生省のお家芸なんですね。古いものを生かしてこじんまりとスタートといいますかね。そういうスタートであつたために、苦労が終始ついて回ったという事は確かにあります。

小西 その点でちょっと私からも。もし私の記憶違ひだつたら後で直してほし

れましたと思ひます。その中でもまさに利用するといふのではなくて、何か初めに将来を見通した青写真はなかつたんでしようか。どの部分に素晴らしい病棟

を立てるといふのではなくて、あれをどうするか、何に使うかという土地利用の問題があつたと思うのですよ。一方において結核がだんだんかたづいてきて、次はがんだと云うことでがん対策を何かやらなければいかぬ、その両方の考え方があの時に、何か

国立のがんの治療並びに研究の中核的な施設を造つたらどうだという構想に結び付いたのではなかつたかと思うのです。従つて、あそこに古ぼけた昭和の初めに出来た建物が残つておるけれども、それらとりあえず始まつたので、新規にバリッとしたものを建てようという構想は、少なくとも当座は出ていなかつた。既存の建物をどう利用しようかというところ

が新しく芽生えといひますか、息吹きといひものを感じられながら、仕事をなされたと思ひますが。

相良 私は三十七年十二月から四十二年九月までですから、私が一番長期間、約五年近くご厄介になつたわけです。今お話をあつたように、準備室時代から第一期整備計画がありましたので、予算にしても、多少の増築問題や、機構、定員の問題など、比較的順調に取れたと思つております。

ただ、五年間の中で私の一番印象に残つてゐる事といえば、予算の面で、今の研究助成金の元になる一億二千万円が、厚生科学研究費から独立してがん特別研究費としてついた事です。

島田 何年ですか。

相良 四十一年度です。これをやるの

に、比企総長、中原所長、久留病院長の三人と、別に癌研の黒川院長、吉田所長の二人が、相前後して当時の科学技術庁長官の三木さんに陳情した結果、がん研

究に関する「三木メモ」が厚生省、文部省に回り、一応三木さんを中心にして予算が実現したようです。

センターはがん大学

小林 研究費の予算要求という事では、研究所ではなくて、病院自身の予算としての研究費を要求するというのが、翌年度予算要求の部内会議で久留病院長がえらく頑張った事です。この病院はがん大学なんだから、がん大学で研究するという条件で僕は来たんだ、そういう研究費が無いという事なら私は辞めて帰る

頭を痛めた事がありましたね。基礎的研究をやるのだ……。それと研究所をどう調整するかというので、厚生省が頭を痛めた事がありましたね。



相良 良先生

の頃、医務局長は尾崎さん、それから病院課長が館林さんで、そんのは駄目だという事で、僕は間に入つて困つた事があった。よその大学の研究費、教室の研究費を調べてきて、とにかくそれ以上のものを要求する。それから、臨床研究部という部を造ろうという事があった。研

島田 今でも先生方は、臨床研究部といふものが必要である、そういうものを是非予算要求しようじゃないかという考えを非常に強く持つていますけれども、それは当初からあつたわけですね。

小林 そうです。ことに、久留病院長が強調して、それと合せて純系動物の飼育場を作り、これは自給自足して純系を

やらなければいかぬというので、動物飼育の専門家をスカウトしてきたので、動物舎は立派な部門として最初に出来た方ではないですか。

相良 学閥を考えないで全国から優秀な研究心旺盛な医師を集める。それにはやはり環境という事を相当表に出しておかなければいけないというのが幹部の人たちの考え方でしたね。

そもそも研究費の発端は、国立がんセンターと癌研の両首脳の陳情によるものですが、具体的には、五ヶ年に五十億円の研究費をくれという要求をしたわけです。大蔵省に対する説明には私と浜田課長が行つたのですが、ものすごく面倒な事になりました。がんを部位別に分け、診断、治療は勿論、若干基礎研究的な面と、公衆衛生的分野まで入れて、要するにプランを作らなければならなかつたわけですね。

大蔵省に説明するのに随分手間どつたが、結局一億二千万円という形になつたと思います。

次に、これは皆さんに迷惑をおかけ

した事だと思いますが、海外技術協力の目的で、タイに国立がんセンターを造るために調査団長として出張、造る事を決めたため、その後国立がんセンターの

皆さん方に色々迷惑をかけているのじやないか、タイの方がうまくいっていないのじやないかと心配しています。

それから、もう一つの問題は広報です。いくら立派な研究所或いは診療センターを造りましても、国民に対する教育、広報というものをもつと基本的に考

えていただからないと、早期発見、早期治療にはつながらない、そういう気がします。私は、今、対ガン協会での仕事をしておらず、診療機関に対しても、早期発見、早期治療の広報をもつと積極的にしてほしいと思います。

それと、最近はリハビリ問題が非常に重要になってきています。胃袋や乳房、子宮のない人口は急増し、膀胱のない人、食道のない人、人工肛門の人など、リハビリ対策を必要とする人が増

えている。病院を退院する時リハビリま

で手を打つて出してあげるという事が出来ないだろうか。がん対策は初めの広報から最後のリハビリまで一貫性がほしい

と思います。

銀鉢会をはじめ、人工肛門の会、人工膀胱の会が患者さんの間で作られ、国立がんセンターの先生方が顧問としてご指導下さっているようですが、今後そういう人口はどんどん増えますので、お考えいただきたいと思います。

若き学究者を集めた

ユニークな構成

島田

初代、二代目の運営部長さんからのお話で大分検討事項なり問題といふ

もので、それらの問題はいわゆる今日的なものもありますが、それが三代目、四代目の部長さんのところではどの

ででしょうか。

山形 私は期間が非常に短かったので大きな事は言えないのですが、当初私が関係していた事を申したいと思います。

三十一年から三十三年の間に国立病院

課に勤務している時に、国立病院の中で特色あるものをやらなければならぬという事で、とりあえず大きい国立病院内にがんセンターとか、循環器センターとか、色々看板を掲げて、そこの部門の機械、器具の整備をするという事をやつておつたのです。しかしそれだけではとてもやり切れないでの、どうしても専門のがんセンター或いは循環器センター等が必要であるという意見を上司に述べ、書類にして残してきたはずでござります。

その後尾崎国立病院課長の非常に熱心なご勉強の結果、先程もお話が出た大きな國立がんセンターの構想が出たと思うのです。

今、私日本医師会に勤めておりますが、武見太郎会長が、厚生省というところは医療行政では余りいいことをやつて

きていないけれども、国立がんセンターだけは非常にいいものを造つたと絶えず言つておられます。大きなポイントは、ユニークな構成にしたという事、それから学閥を考えずに全国から勉強家が集まつた事、定員を若いスタッフで揃えた事、それらいくつかの大きな柱が実行された点が高く評価されているためだと思います。国立がんセンターがちょうど東



山形先生

京駅、大阪駅のように全国の中心になれば、次々と各地で行われる集団検診の後始末もうまいくだらうという気持ちを持つておつたのですが、当初、国立がんセンターでも集団検診をやるという構想

だったので、これにはいささか抵抗しました。最初からそこまで手を伸ばすと話がややこしくなるのではないかと言つて、医務局と公衆衛生局との間で若干口論した事があります。対大蔵省の手前もあり、集団検診の技術を早く開発して、全国に広げるための相談室だという事で、市川病院長が確か初代の相談室長になられて、大変に忙しい毎日の生活をされておられたと記憶しています。

それから、私のときには所謂患者さんの贈答品みたいなものは一切受け取らないで、金品は総て運営部長のところへとということでお香典返し、或いはその他の物を預かっておりました。これは本当に清々しい気分でしたが、私のところで一切管理するというわけにもいかず、そのためにも今日のがん研究振興会の財團法人化の手続きを一生懸命やりましたが、私の代では完成しませんで、後の方にお願いしたわけです。

先程相良先生からお話をあつたタイ国がんセンター設立問題が後半出てまいり

まして、後はほとんどこの仕事に集中しました。木村先生、崎田先生、梅垣先生、尾形先生とタイ国へ一緒に行つたわけです。ああいう時期にがんセンターを造るという事自体、根本的な問題があつたわけです。部長クラスの先生にまず診断してもらつて、それから若い先生方にも付き合い願おうと思いました。タイ国に出張というオーダーをいつ出せるか、非常に心配な仕事でございました。とりあえず設立計画の医療調査の報告書をまとめて後の方にバトンタッチしたのですけれども、これは生易しい仕事ではないと肝に銘じたわけです。

無我夢中でやりました十ヶ月間でしたが、病院、研究所の中身については大いに理解度を強めました。しかし、何せ入れ物が悪くてどうしようもない時代でしたので、前の部長さんたちが作られた計画を一刻も早く実現しようと、厚生省、大蔵省の、予算折衝を一回だけでしたが頑張ったわけであります。今考えてみると、あの当時働いて下さった先生方か

ら職員の人たちは、文句は山ほどあつたのでしようが、がんという目的一本にして上も下も我慢してよく仕事をして下さったという事、これは非常に印象に残つております。従つて、時代が變つて色々なニードとデイマンドが混つてくると、満足する事はないと思いますけれども、今の運営部長さんのご苦労を想像して、逆に氣の毒だなという氣もします。しかし、建物がよくなつたのですから、その点どう影響しているのかお聞きしたいところです。

運営部長は調整役

島田 それでは、山形先生のご質問は後程一括してお答えすることにしまして、次に、四代目の小西先生は四十三年の九月から四十五年の五月一杯まで在職されたわけですが、それで、一応小西先生の時代に三十七年から発足した国立がんセンターが漸く地が固まると言います。

か、道も開けて、この辺で一応形も整い、更に、五代目の石戸先生の時から新ぼつてからも我慢してよく仕事をして下さったという事、これは非常に印象に残つております。従つて、時代が變つて色々なニードとデイマンドが混つてくると、満足する事はないと思いますけれども、今の運営部長さんのご苦労を想像して、逆に気の毒だなという氣もします。しかし、建物がよくなつたのですから、その点どう影響しているのかお聞きしたいところです。

小西 その前に運営部長というのは、体どういう事をやるのだと云う話を、簡単に申し上げてみたい。

確かに運営部というような機構は日本

の病院には余り見られない。一般的に病院長の仕事は大別して施設運営管理と診療管理に分けられる。国立がんセンターの場合は、更に研究管理という仕事が加わる。これらの管理責任を運営部長と院長と研究所長で分担をしてその上に総長がいて統轄する。外国の病院にはコ-ディネーターというポストがあります。

運営部長というのはこのコーディネーターに相当するのではないか。国立がんセンターにはがんの診療と研究を自ら行う上でございますね。そこで小西先生には、発足してから約八年目でございまして、発足してから約八年目でございまして、その間のおそらくまとめてお仕事があつたのではないか、そして、次

の石戸先生には新病棟の予算要求のご苦労からそういう新たに新しい病棟造りのお話ををお伺いしたいと、このように思いました。私が着任した時にも色々な問題があります。具体的にはこのがん研究振興会もそうですが、私が辞令を刈り取ると云うか、芽を出させると云うか、そういう仕事がとりあえずあつたよう記憶しています。具体的にはこのがん研究振興会もそうですが、私が辞令を貰つた四十三年九月二日に発足をしてい

筑波研究学園都市

への移転問題

これから、筑波移転の問題ですが、これにはかなり起伏がある。私の時にも、就任して二ヶ月目位に、国立がんセンタ

一もリストアツプされているのだから真剣に考えるようとの要請が来ました。センター内で総員討議にかけて度々議論をした。しかしながらまともならない。そこで、思い切って現地視察をやつて見ようじゃないかと云う事で、秋の一日、観光バスを借り上げて行ける人は誰でも良いという事で出かけた。久留総長も行かれた。事務系統も、ドクターも——市川先生も行かれましたね——それからナースも。四、五十名バスに乗せて、筑波山の麓まで行つたわけです。帰つて来てまた何回か総員討論をやりました。その時に、やはり東京から遠い、有料道路が出来ると約六十キロで一時間そこそこで行けるじゃないかと云うが、道路が詰まるところ果たして思惑どおりいくのかという議論もあった。それから職員採用の問題で、東京の真中にあるから人が得られ易い、果たして筑波山麓に行つて人が得られるだろうかというような事。それから、ほかの機関との協力、連携、こういう点については確かにデメリットがあ

る。しかしあそこで今の一萬坪でなしに、何万坪かの敷地が得られるという事になれば、これから大いにやらなければならぬ、放射能を活用したがん治療の研究やその実施、これには大変好適な所であるというような話も出た。しかし、とのつまりは、やっぱり地の利を考えると云う事が優先をしました。但し、国立がんセンターの重要な仕事として放射能の関係施設を造る場合には、その部門を筑波山麓に造るという余韻だけは残しておこうと云う事であった。

こういうわけで、病院部門はもとより、研究所と病院を引き離すという事は国立がんセンターの使命から云つてまずないので、病院が残るならば研究所も同じ所に残さなければならぬ。こういう事で、最後の答案を書いて出したのです。というのは、この問題がかたづかないといつまでたつても新しい施設の計画が立てぬ訳です。何回かの討議やら現地視察をやって、国立がんセンターが全部筑波山麓にいくという案は廃案にしようとい

久留総長 タイ国がん

それからもう一つの問題は、タイのがんセンターの技術協力です。これは、私が来た時にはどうにも引っ込みがつかないような状態になっていました。ところが、医局にかなり抵抗があつてなかなか賛成をしてもらえない。というのは、実際に施設が出来て患者を診れるようになれば、研究面でも、診療面でもドクターが行ってそれなりの成果を上げる、或い

う一応の結論を出したわけです。それじゃあこの一万坪の中で増床をし、そして研究所を整備するにはどういう青写真を書いたらいいかという事に取りかかつて、何枚かの案も出来ました。しかし、厚生省の方は国立がんセンターの改築は医療センターの後だと云う事になつて、次の石戸さんにバトンタッチをしたといふわけです。

は研究も推進出来るというような魅力があるでしょけれども、それがまた一つ出来ることやらさっぱり見通しが立たぬ、建設段階ではとかく縁の下の力持ちは的な役割しか考えられないわけです。そういう事もあって、医局側の、協力態勢がなかなか決まらない。

この時に久留総長は何も言わずにじつとセンター内の空気を見ておられたのですけれども、いよいよ四十三年の十二月に外来部門の開所式を現地でやるという話が起りました。これには国王が出席され、ついては日本から厚生大臣もしくはその代理にふさわしい方の出席を煩わしたい、こういう要請が現地から来た。その時に久留総長が、自分が行こうと、こう仰つた。総長はその前から健康がすぐれなかつたのですが、その頃は大分落ち着いてこられて、調子が良くなりかけられた頃ではなかつたかと思うのです。そういうこともあって、自分が行こう、こう仰つたのだろうと思うのですが、しかし十二月と言えどもバンコックは暑い

ですから、総長にとっては大変な負担だつたに違いない。今にして思えばあれがどうも後で総長の寿命を縮める一つのキッカケになつたのではないかと、私は大変申し訳なく思つてゐるのです。

こうして久留総長自ら、健康上の配慮から介添として奥さん同伴でおいでになつたのですが、これがキッカケになつて

医師としての仕事が余りないわけです。それをよく医局の方々が我慢をして行っていただいた事については今でも感謝をしております。

私の時代に今の外来に使つてゐる新しい中央診療棟の建物、あれがちょうど使えるようになつたので、そういう点では前の三代の部長の時よりは、施設の運営の面では大分楽になつたと思ひます。そして、あれの最上階にレジデントの部屋も出来たものですから、レジデント制度といふものを発足させて、やつとがんの専門医の養成という事が具体的に始まつたわけです。

医局の空気が変わりましたね。この点、久留総長が国際関係の重要性を認識されて、ある程度自分の健康状態に負担をかけてでも敢然として実行されたという、リーダーとしての態度に私は深い感銘を受けたわけです。しかしその後タイ側は



小西先生

地方がんセンターへの

協力・援助

相良 私の代でもう一つ申し上げておきたいのは、愛知県がんセンターの発足に当たり、県の小川部長から頼まれ、その準備要員を三ヶ月間お預りして教育し、

愛知県からサンクス、豊尾の手伝いをして
た事です。国外の、タイの事もあります
が、やはり国内の地方がんセンターのご
援助を出来るだけして来たという事は、
一つ大きく言つていただいて良いのじや
ないかと思ひます。

島田 時代の流れとともに、国外ではタイのがんセンターの応援、並びに国内では愛知県がんセンター、それから続々とできてまいりました方がんセンターに対する援助、或いは指導的な役割も果たしてきたわけですが、たまたま五代目の石戸先生の時代になりますと、そういう内的、外的な環境条件というよ



石戸先生

新病棟建設始まる

その頃国立がんセンターに参りまして驚いたのは、まるで迷路みたいな所で、何処をどう歩いていいのか分らない。それから、世界的な国立がんセンターでありながら、あちこち雨漏りがしたり、薄暗く、必ずしも近代的でない病棟であるという印象を持ったことが記憶にあるの

石戸 私も、小西先生が言わされましたけれども、先輩の先生方の残された業績を発展させるということをやってきたのです。

そういう内的、外的な環境条件というよ

ちょっとわき道にそれますが、私、宮

という印象を持つたことが記憶にあるの

うなものも踏まえた上で、そろそろ国立がんセンターもひとつ古いものから脱皮して、新しいものを造る事が必要なんじゃないかというような時代にぶつかつて、新病棟の予算要求もしその着手に当られたわけですが、先生は大分ご苦労なさったというお話を聞いておりますので、ひとつこの際その辺のお話を伺いたいと思います。

城県の衛生部長時代に、地方がんセンターの一の一つとして成人病センターの建設にあたりました。現在でこそ、東北の地方がんセンターとして立派に活躍していますが、スタートして暫くは、当初の知事さんが不幸にしてがんで亡くなり、地方がんセンターとはいうものの、他県が経費を分担するわけじゃなし、えらく金がかかる、県財政のがんになるのではないのか、いつそ国立がんセンターの分院にしあつたものでした。

です。私の着任時、すでに病棟の近代化の計画、予算案が出来ておりまして、是非これを取らなければならぬということになつたわけです。ちょうど塚本総長が色々な人との結び付きがありましたので、この機会を逃したら国立がんセンターの近代化はできないだろう、押せ押せということで、お陰様で第一期の予算が付いたわけなんです。その予算折衝の過程で、やはり筑波移転の問題が出まして、何故行かないのだ、行くべきじゃないかというディスカッショ�이相当ホットに続けられたわけです。いつたん漕ぎ出しているわけですから、船を元に戻すというわけにもいかず、何とか切り抜けて予算を獲得したのです。

ところが、その次に計画の修正をやつたわけです。最初の案では現在の外来の診療棟はそのままにしておいて、病棟だけを建てることがあります。しかしながら考えてみると、このままでは、世界各国のがんセンターと比べて大変見劣りがするものになるのじやないか、どうして

もこれは外来棟も含めて新しいビルディングを造らなければならぬ。それから、ものの流れ、或いは情報の流れから考へても、古い外来の診療棟と新しい病棟と長い廊下で結ぶというのは大変運営上もまざいというふうに考えまして、翌年の予算要求の時に構想の変更をやろうとしたわけです。これは塚本総長その他の関係者に相談をしたわけですが、予算要求の技術からしますと大変問題があるわけです。しかし皆さん理解をしてくれば、古い外来の診療棟はこわしまして、そして診療棟もひつくるめて病棟と一緒に建てる、管理部門は低層部分に置いて、そして運営部門は現在使っている古い診療棟に一部入るという構想で予算要求をしたわけです。案の上、大変怒られました、おかしいじやないかということになつたわけですが、塚本総長或いは病院の石川院長・木村副院長さんが、一生懸命応援をしてくれまして、ようやく厚生省も認め、大蔵省を通つたと、こういう事でござります。

世界にとどろくがんセンター

島田 こんなことを申し上げては大変失礼かと思うのですけれども、六代目の松浦先生の時代になりますと、たまたま世の中の景気も上昇ムードにあり、何となくよき時代であつたのではないかとうような感じがするのですが、初代から五代まで色々ご苦労され、六代目も松浦先生もご苦労なされたのは勿論のこととございますが、世の中の景気上昇ムードに相まって国立がんセンターの運営部長としての運営にも楽しい一面もあつたのじやないかと思います。ご苦労のお話は今十分伺つたので、松浦先生からはもう少し、何かそういう上昇ムードに乗つたお話でもいただければありがたいと 思います。

私が来たのは、十周年記念が前の年に

松浦

余り上昇ムードもなかつたので

すけれども……。

私が来たのは、十周年記念が前の年に

ありましたが、ちょうど満十一年になりました。ただのとおもいます。今、島田さんのお話のように、確かに日本のがんセンターということで非常に天下に名のとどいた時代に私が来て、そういう意味では確かに余り苦労のない時代で、先輩方の遺産をそのまま受け継いだだけであったと思うのです。ただ、今度は別の意味で元禄時代へ入っていたのだろうと思います。

一番端的に考えれば、初代の時には大体三十五、六歳の方が中心になるようにといっておつた方々が非常に円熟された時に来た。しかし、円熟したというのではなく圓熟を通り過ぎるわけですか、そういうふうな曲り角であつたのではありませんか。ですから、その最も頂点の、いいところであつたけれども、明日からは問題が起るのではないか。例えば研究費なども非常に増えて来たという時代でして、そんな中から個別に研究費を一所謂助成金ですが、分けるということはしないで、億のオーダーの大型研究を造

ろうなどということがありまして、所謂大型プロジェクトというのが出来たわけです。時代的に、研究費というのはいくらでもあるものだというような、所謂慣例の空気、色々な意味での慣れの空気が出てきたのじゃないかということを、後から考えてみると反省される時代でした。

島田 林先生、今、松浦先生から、今

から考えてみるとそろそろ反省時期に入つたというお話を伺いましたが、先生の時代になりますとそれがどういうふうに……。

それからもう一つは、三部門の和、特に総長が心配しておりますのは、病院におけるは色々、今出た慣れの問題とか、使命感に欠ける。端的に言えば病院の中に起きた定数管理なり労務管理の問題を自分のことだと感じない。そんなものは運営部がうまくやればいいんではないかと、こういう人がかなりあつたわけですが。ですから、それではセンターは反面うまくいかない。業績はいいのが積み上がりつたけれども、センター自身の内部の管理がうまくいかなければ、いざればろ

もう間もなく第一回目の手術という時で

まず、私参りましたのは、塚本総長がが出るということで、その辺に苦労しま

したし、色々言ひにくくこともすげすけ申し上げました。

それから、例えば研究費の問題或いは治験薬の問題、こういうものには運営部が囁むことになっておりながら、ノータッチで行われておったから問題が起きたのであって、できるだけこういうものに

経理面、会計課あたりを囁むように、個



松浦先生

立派になつても研究所が立派にならなければ片手落ちですから、これを何とかして、せめて約束を取りつけようと、調査準備のための経費ぐらいの約束を取らうということについて骨折させていただきました。

また、塙本総長とがん予防の元締めの加倉井公衆衛生局長が、同じ日に亡くなられたのは誠に残念なことでした。この時に死因を隠そうじゃないか、がんでないと言おうじゃないかという話が随分あつたのです。しかしこれは絶対に本当の事を言うべきだということで、本当の事を言つた。これはがんに対し、まだそういうふうに逃げなければ立ち向えない

島田 色々お話を伺いました

新病棟への移転

十年を一区切りとすれば、六代目の松浦先生時代に一つの大きな曲り角があつたというように考えられます。今もお話を伺いましたように、そろそろそういうことではいけないので、やっぱり勝つ時期を早くしていくというふうな姿勢が必要じゃないかと思ってやつたわけ

浦先生時代に一つの大きな曲り角があつた色んな面で反省期に入つたということです、やはり一つの大きな曲り角に入つているのじゃないかと思います。それから、私が八代目で今年は十五年目にあたりますが、私どもひとつ真剣にファンシを締め直して考えなければならない時代に置かれているということで、須張つていきたいと思っております。

そんな中で、今まで先生方のお話の中に出でまいつたもので現在私の時代で多少とも形が整つたと申し上げられますのは、一つは国立のタイがんセンターでご

ざいます。幸いに去年の十二月にオープ
ンをいたしまして、計画としまして五十
一年度が援助計画の十年目に当たります

が、これで一応の区切りをつけようとい
うことになつております。その間、ほと
んど我が國立がんセンターのドクター並
びにバラメディカルの技師の方々が、全
面的と言つていよいよ応援した形でここ
までこぎつけたということは、誠に大き

な事業ではなかつたかと思ひます。五十
二年度以降は、また昔のOTCA、今J
ICAと言つておりますけれども、改め
て何かプログラムを組むというような事
も聞いております。非常に長い道のりで
色々な事がありましたが、患者も
収容して治療を始めておるようござい
ます。

それから、新病棟が四十六年から着手
まして、今年の一月の七日に旧病棟から
新病棟へ移転をいたしております。色々
問題がございましたけれども、幸いに、
無事に、平穀裡に、見事に移転が行われ

ました。ことにその時には中原総長がち
ょうど入院をされました時期でございま
して、旧病棟から新病棟へベッドで移ら
れました。その際には、あの渡り廊下に
紅白のテープを張りまして、中原総長が
ストレッチャーの上からテープカットを行
って新しい病棟に移られたと、こういう
エピソードもござります。

この五十一年度、新たに四病棟をオー
プンすることになつておりますと五十二
年の連休明けを一応の目標にいたしまし
て、今準備を進めております。百名位の
新しい看護婦さんになっていただきまし
て何がプログラムを組むというような事
も聞いております。非常に長い道のりで
色々な事がござつたけれども、患者も
収容して治療を始めておるようござい
ます。

病棟を開棟したいというようなことで、
色々センター内で話し合いを行つており
ます。

先輩方の非常に色々ご苦労いただきま
したことで、一応完成をみたといえるも
のはこのよくなところでござります。

それから、情報センターですが、これ
されましたのがようやく昨年完成をいたし
まして、今年の一月の七日に旧病棟から
新病棟へ移転をいたしております。色々
問題がございましたけれども、幸いに、
無事に、平穀裡に、見事に移転が行われ

夢広がる計画

そこで、早速六月になりますと五十二
年度の予算の編成が始まるわけでござい
ますけれども、ひとつこういう時期に、
私どもはこれから国立がんセンターの
ブループリントを新しく描き上げようと
やないかというような話し合いをしてい
るわけでござります。現実の問題とい
しましても、従来から先生方のお話に出
てまいりましたように、研修センターと
いうような問題もまだ今日検討事項とし
て残つております。

それから、情報センターですが、これ
はご存知のようにWHO・CCCというも
のが今センター内にあるわけでございま
すが、国際的には国際情報の収集の一環
としてこの情報センターが非常に大きな
活動をしております。しかし、国内の情
報センターとして、全国のがん診療施設



林先生

デイテクション・センターというものも改めて考える必要があるのじやないかと、いうようなことで話し合つておるわけでございます。しかし、この一万坪の中に、そういうった情報センターとかデイテクション・センターとか研修センターといふようなものを建てるということになりますと、物理的に困難な状況にあります。従つて、今後そういう建物を建てるにはどのようにしていつたらしいかといふようなことも勿論考えていかなければなりませんが、そういう建物を建てる事が不

の情報のまとめ役ということになりますと、まだそういう形ではできておりませんので、将来国内の情報センターといふような形でも必要なんじやないかというふうに考えております。

また、たまたま山形先生からお話をされましたけれども、ディテクション・センターといふようなものも今日一つの話題といひますか、問題として提起されております。そこまで手を伸ばすのはどうか

ている所が臨床研究部的な仕事をしておられる所になつております。臨床の先生方がそこで基礎的な実験をやられて、いる所が、それがまた今日の国立がんセンターが大きく伸びてきた一つの要素でもあることとで、先生方からも非常に強い要望があるわけでございます。今後そういう臨床の先生方も基礎的な実験なり研究をするためにはどのようなことを考えていつたらしいかといふのが、やはり一つの大きな問題になつて、いるわけでございます。

そんなような形で、いま八代目になりましたけれども、先生方のお考えになられた歴史的、大きな構想と、いうものを受け継いで、なお大いにやつていかなければならぬ、いろいろか、機能の面の充実を図ることによつて、一応こういう問題にも対処出来るのじやないかといふような考え方もない問題として認識いたしております。現在のところ、新病棟が出来ましたが、外来棟が来年秋頃には完成するのじやないか。その後で研究所を新しく建設しようと、いう順序で考えております。研究所としてその精神が流れているわけでございまして、たまたま八号棟といわれ

ます。それで、ディテクション・センターといふようなものも今日一つの話題といひますか、問題として提起されております。そこまで手を伸ばすのはどうか

それから、発足当時からありました臨床研究部といふようなことも、まだ今日までござりますけれども、まあ今日このような時勢になりますと、そういったございまして、たまたま八号棟といわれ

年度、或いはまた五十二年度まで調査費
ということになるかもしませんけれど
も、ここ二、三年して、新しい近代的な
研究にふさわしい建物を建てようという
ことで、皆話し合いを行つてゐるところ
でござります。

What
past
is
prologue.

年間の生存率八分の八、非常におめでた
いと思うのですね。（笑）ですから苦労
された点を色々な場面で披露していただ
いて、参考にさせていただくというと大
変ありがたいと思うのです。いま山形さ
んが仰つたように、お一人お一人のお持
ちになつてゐるビジョンを是非披露して
いただきたいと思います。

私が就任の時に病院の者を集めて挨拶
をしたのですが、最後に言つた話は今日
も当てはまるのじゃないかと思うので申
し上げたいと思うのです。私がある時に

中原前総長の所に、たまたまいい話であ
つたわけなんですけれども、ご報告に行
きました。そうしたら、中原先生はそれ

がん対策の

ネットワーク造り

山形 市川病院長から私たち歴代運営
部長についての忌憚のない評価をお聞き
したいですね。

市川 全部オフレコになつてしまふ……
…………。（笑）

最後にちょっとだけ申し上げておきた
いことは、国立がんセンターの総長はい
ま六代目なんです。六分の五の方々が戦
死されているわけです。院長は四代目だ
そうです。その半分、五〇%は戦死され
ておられます。運営部長は八代目で十四

か、今後に向かつて皆でやろうと、こう
いう意味だと私はとつたわけです。それ
が七十幾つの方で、亡くなられる寸前ま
で、研究をされておられた方が仰つた
ところで、ますます価値があると
思うわけです。その精神を受け継いでい
くべきだと思うのです。温故知新と言
ますが、昔にご苦労なさった点を是非生
かしていきたいと思いますので、引き続
いてご助力をいただきたいと思います。

石戸 各地に地方がんセンターがあ
り、その他に色々都道府県がん診療施設
とかがあるわけですね。がん対策のネッ
トワークというものの拠点が出来た、こ
れを本当のネットワークにするためのク
モの糸をどういうふうにしたらいいかと
いうことです。何か有機的な連絡がと
れるようすべくではなかろうか、法律を



島田先生

作らないまでも、協議会、『全がん協』というのがありますが、これはあくまで協議の場であるわけで、何か本当のネットワークといえるものにできないものであろうかということを私考えております。病棟の病床数を決める時に、各地にある方がんセンターあるいは都道府県の診療施設、或いは大学病院のがん施設との有機的な連絡を図るならそれほど大きな数はいらないのではないかというような議論もあったと記憶しています。

小西 私も石戸さんの言われたこととほとんど同じことを将来の希望として持つているのです。特に今日は病院長も出でています。特に今日は病院長も出でています。特に今日は病院長も出でています。

島田先生は、その立場から、地域の医療施設や研究機関との連携強化を提唱するなど、常に先駆的な役割を果たしてきました。また、地域社会への貢献活動も積極的に行なっており、多くの人々に影響を与えてきました。

島田先生は、その立場から、地域の医療施設や研究機関との連携強化を提唱するなど、常に先駆的な役割を果たしてきました。また、地域社会への貢献活動も積極的に行なっており、多くの人々に影響を与えてきました。

作らないまでも、協議会、『全がん協』というのがありますが、これはあくまで協議の場であるわけで、何か本当のネットワークといえるものにできないものであろうかということを私考えております。病棟の病床数を決める時に、各地にある方がんセンターあるいは都道府県の診療施設、或いは大学病院のがん施設との有機的な連絡を図るならそれほど大きな数はいらないのではないかというような議論もあったと記憶しています。

島田先生は、その立場から、地域の医療施設や研究機関との連携強化を提唱するなど、常に先駆的な役割を果たしてきました。また、地域社会への貢献活動も積極的に行なっており、多くの人々に影響を与えてきました。

島田先生は、その立場から、地域の医療施設や研究機関との連携強化を提唱するなど、常に先駆的な役割を果たしてきました。また、地域社会への貢献活動も積極的に行なっており、多くの人々に影響を与えてきました。

国民の期待を担う

がんセンター

島田先生は、学界や何かを通じて学問の面での交流というのは、かなり緊密にやつていらっしゃると思うのです。ですから、ここにある国公立がん診療施設のリストを見ると、かなり全国的にどんどん施設が整備されてきているわけです。

島田先生は、その立場から、地域の医療施設や研究機関との連携強化を提唱するなど、常に先駆的な役割を果たしてきました。また、地域社会への貢献活動も積極的に行なっており、多くの人々に影響を与えてきました。

島田先生は、その立場から、地域の医療施設や研究機関との連携強化を提唱するなど、常に先駆的な役割を果たしてきました。また、地域社会への貢献活動も積極的に行なっており、多くの人々に影響を与えてきました。



市川先生

が出て来る。これはむしろ喜ばしいことですね。そういうのが出てきたなら、何もいつまでもという感じもないわけではないので、今度はまた別のところにやつてもいいのじゃないかと思うのです。

相良 話が変りますが、松浦さんは、統計情報部長の経験をお持ちですが、統計情報部ががんの統計を、もっと詳しく出して下さることを、国立がんセンター

ういうことをやるということに対しても、むしろ抵抗があるというような状況だと思います。ですから、がんセンターの調査課と統計情報部とが色々な協力をするというのは、できる話だと思います。いまの調査課は統計情報部と人事交流をやっていますので、やる道があるのじやないかと思いますね。

患者看護の素晴しさ

来るだけ何とか都合して代わり合つて、前向きでそれに対処すると、こういう空気を医局内部で醸成していただきたい。

できれば、これまたがんセンターに対する評価といいますか、これもまた変わったものが出でてくるのじやなかろうか、こんな感じがしているわけです。

市川 非常にいいことだと思いますし、我々もそれをやってきているつもりですけれども、まだ不充分なんですね。ところが、一面、こういうのがあるのです。ある程度それで育つてきますと、もつと言えば、国立がんセンターなものぞ、こっちでやれるぞというような気概

が情報センターになつていただき、臨床面のフォローアップをしつかり出していただくというのと並行すれば、非常にありがたいのじやないかと思うのです。

市川 それはできそうならば是非という感じがしますね。

松浦 それは可能だと思います。ただ、統計情報部が持つていてるインフォメーションというのは死亡だけです。ですから死亡だけを細かく分析することはできません。それ以外は出来ない。

例えは登録の問題もあるわけですが、これも大阪なら大阪の登録、或いは岡山なら岡山の登録ということで、中央がそ

山形 高邁なビジョンじやなくて、現実的な、割合近い将来に是非実現してもらいたい一、二があるのです。
それは、私のところは今インターナショナルなお付き合いが多くて、申し訳ないくらいに、毎日のように見学者をがんセンターに送り込んでいるわけです。それで、やはり担当の先生方に大変ご迷惑をかけています。運営部の苦労も分りますが、今これだけ視聴覚の機械が発達しているのですから、ビデオでも、カセッ



上段 榎本事務局長、林、松浦、島田、石戸 の先生方
下段 市川、小西、小林、相良、山形

トでも、カーリングでも手に入れて利用される事を運営部で考えてほしい。

それからもう一つは、国立がんセンターは患者看護が第一だという昔の精神が今までも継承されているのだと思いますけれども、がんセンターはともかく看護が素晴らしいという評判は何としても続けてほしい。それには、外国へ行かせることがいいとか悪いとかいうことは別にしても、何かそういうこともそろそろやられてもいいのではないかといふ気がするのですけれども、実際はどうですか。

市川 ニューヨークのメモリアル病院、そこと総長を中心として色々研究交流をやっているのです。そうしたら、向うの看護婦さんが日本のがんセンターの看護婦さんと交

トでも、カーリングでも手に入れて利用される事を運営部で考えてほしい。

それからもう一つは、国立がんセンターは患者看護が第一だという昔の精神が今までも継承されているのだと思いますけれども、がんセンターはともかく看護が素晴らしいという評判は何としても続けてほしい。それには、外国へ行かせることがいいとか悪いとかいうことは別にしても、何かそういうこともそろそろやられてもいいのではないかといふ気がするのですけれども、実際はどうですか。

小林 今後のがんセンターというか、病院というか、その一つの内容整備の問題と思いますが、さつきちょっと相良さんが仰ったのだけれども、リハビリテーションの問題です。私、現在、P.T.、O.T.、(理学療法士、作業療法士)の養成教育ということをやっているのですから、いままで時々がんセンターでいつ

流をやりたいという話が出てきましたが、なかなか忙しくて外国人相手どころで英会話の勉強をしている婦長さんもどうやらそういう会を日本でやるのではないかと聞いています。それを契機に、いま言わたったように今度は向うへ行くということも出てくると思います。なかなかいいことだと思います。

今後の課題

リハビリの強化

そういう部門を始めるのか……。PT、OTをひとつれんかというようなことを、ついぞ誰も一回も言わないが、それでいいのか……。そういう定員も今はないでしようが、今後は必要でしょう

ヤツブを持った者がいっぱい出てくると いうことに対しても、がんセンターでできなければ、振興会でもという気もするのですが。

間も大分超過致しましたので、今回はこの辺でしめたいと思います。長時間どうもありがとうございました。

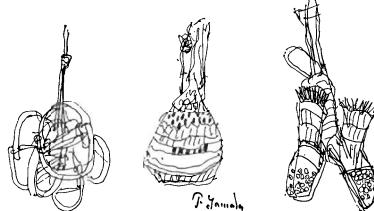
ね。一つには、勿論リハビリという考え方には医の本来の立場ですから外国のがんセンターは、みんなそういうジャンルがあるというようなことは別にしても、このがんセンターが国内のモデル施設とすれば、やはり早くひとつそういう面にも手をつけることが必要だし、また医者、看護婦のそういう臨床治療者としての心がまさといふようなことにも意味を持つのではないか。

相良 例えは喉頭がんの銀鉢会の会員の方々が指導に来ておられると思います。乳がんも乳がん研究会で「回復者の手引き」を会員の方全部に回していると思します。それから膀胱がんの会がありますね。これは松本先生が顧問となり、業界とタイアップして福祉政策にもつながるよう協力されています。ハンディキ

市川 先日の研究会では、頭頸部の竹田先生が今までやつておられた研究の集大成を話されたのです。がんセンターが出来た当時と今ではこんなに違っている、何が違っているかというと、機能保存ですね。要するに、今まで手術してがぶっと取つて終わりだつたけれども、今はそうじやない。その後もしゃべれるように、外観もそう悪くないよう手を動きにくくならないように、海水着を着てもそうおかしく見えないよう

にとか、そういうようなことを考えながらの手術がこれだけ変わったというお話をあって、大変感銘を受けたのです。そういうような話は、色々な分野にあるわけです。いままでは生かすだけで精一杯だったが、治療が進むと、そういう必要が生じて来る。

島田 話はまだつづきませんが、時



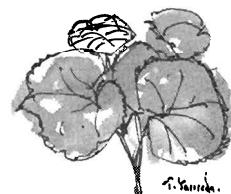
癌

までたまるか』の

出版によせて



田沼顕竜



ていただいたので、毎日感謝して居ります。

又手術の前には「手術は簡単にいきま

ンター病院に入院して、石川七郎先生に手術をしていただいた患者です。当時は旧館の二階で第三病棟に居りましたので、多くの先生や看護婦さん達から大変親切にしていただきました。お陰をもちまして、その後は経過順調で、日常生活には何の支障もなく手術前と同様元気でやって居ります。全く幸運に、諸先生や皆様のお力によって私の命を救つ

すよ」と話されて、手術を受ける身の私には何の不安もなく感ぜられました。現

生は私の主治医でありますが、手術の前後を通じ、いろいろ面倒をみていただき、励ましていただきました。手術前は退屈してるのを見かねて、何処のおそばやさんが美味しいとか、何処の天ぷらや月、突然の血尿によつて始まりました。左腎臓がん(ヒペルネフローム)の病名で慈

抑々、私の病気は、昭和四十七年五月、突然の血尿によつて始まりました。左腎臓がん(ヒペルネフローム)の病名で慈

恵大学病院に入院し、南武先生によつて剥出手術を受け、更に放射線による後療法までしていただいて安心して退院したのであります。半年もたたないうちに宿命とも云われる転移がやつてきました。右上葉に、而も肺門部の処にゴルフのボール大のものが顔を覗かして居つたのです。

既に私の友人始め、治療関係者は知つて居つたのだそうですが、場所が場所だけに「とても手術は出来まい」うつかり私や妻に話すことも出来ず苦惱して居つたのが実状で「困った。困った。」と思いつつ月日がたつて、十月私が診療中、突然の喀血によつて自ら知らされたのであります。一時は忘然自失愕然としたのであります。現実はどうしようもない。自分で此の運命をきり開くしかない。今迄も幾度か死線を越えて來たのだ、負けてたまるか！頑張れと自らに云いきかせて運を天に任せました。早速南先生のご紹介によつて石川七郎先生のお世話をになりました。「手術は出来ますよ、安心

しなさい」と話された時は暗雲が一時に晴れて、私の胸には光明が光り輝いた事あります。然し中々入院は出来ず、喀血は度々やつて来る。このまま死ぬのではないかと焦り気味でした。めでたく入院は出来ても検査々々で中々手術の日が決まらない。一時はやけ気味になつてテレビを見ながらビールを飲んだり、銀ブラをして気分をまぎらして居りました。その頃私の部屋に忍び込んだこそ泥棒をつかまえてほめられたのも今では懐しい入院生活の想い出になりました。

此のように申し上げても全てが良いわけではありません。第一回目の腎臓剥出手術後受けた放射線の後遺症が意外に酷く、二年たつた今でも背中やお腹に固い索状の硬結や、腸の癒着のためか、柿とかこんぶ等の纖維の多い食物をとると便秘して苦しむ事があります。背中がその為にこると、つらくて美人に柔かくもんでもらつたらさぞかし快適だらうなと思いますが、未だ心臓が弱いのでトルコ風

呂等は経験がありません。マッサージ用の椅子を女房が買ってくれましたが、ゴツゴツした感触なので、今では殆んど使って居りません。ここで放射線療法が果して私には適切だったのかと疑問さえ思われます。つらいものですよ。

然し私は幸運であり、恵まれて居ります。私が国立がんセンター病院にお世話になって一番感ずる事は、先生方がみな優秀な、その道の大家でいらっしゃるばかりでなく、人間的に心優しいヒューマンな方々ばかりなのには胸を打たれました。私が手術直後、I・C・Uの部屋に入られて独り苦しんでいる時に、石川先生が見舞われて、「私も手術を受けた経験がありますが、痛い時は遠慮なく注射をして貰いなさいよ」……。又熊岡先生は右肺が痛んで右手が上らないのをみて、卵を割って食べさせていただいた事等は一生忘れられない温い想い出です。

一寸した言動でも私には強く胸を打ちました。特殊な病院であるだけに、先生方のお気持が偲ばれて素晴らしいものでした。

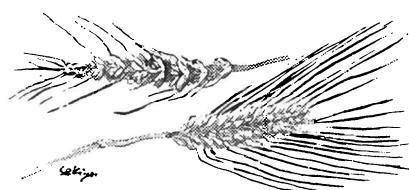
此度、私は私の闘病経験を書いたのですが、その動機の一つは前述のように先生方、看護婦の方に感謝の微意を表したかった事と、今苦惱に呻吟して居られる多くの患者さんやご家族への励ましと、慰めにもなればと思って、拙い筆をとりましたが、思うにまかせず中途半端のものになりました。今後は更に内容を充実してご期待にそいたく考えて居りますので、何卒ご指導ご鞭撻賜るようお願ひ致します。

田沼顯竜先生略歴

昭和十五年、慈惠医大卒、東大伝研内科入局。短期軍医として中支及ソロモン、ブーゲンビル島に転戦。

終戦後は、川崎市新城東芝病院勤務、昭和三十七年、南武線事故の際の救急活動により神奈川県警より表彰。

昭和四十七年、地域医療に貢献したことにより県知事より表彰。現在、田沼医院院長の他、川崎市医師会監事、川崎市地域医療協議会委員。六十三歳。
現住所 川崎市多摩区堰一六〇番地



ホルモン療法への英國医学者の寄与

ガイズ病院の医師達を中心

あらわし

熊岡爽一



現在、アメリカ医学が世界に冠たる存在であることは万人が認める所であろう。その理由として経済力の大きさを無視することはできない。しかし、経済力だけを問題とするなら、クエート、西独、スイス等米国よりも数等裕福な国は多い。

重要な点は、病院や研究所の合理的な運営にあると考えたい。その点で、私の知り得た十九世紀の英國には、今日のアメリカ医学の隆盛のお手本になつたであろう多くの先人達の閃きがちりばめられていることを知つた。今日の英國の医

学界や医療制度については我々の参考になる事柄もあるのであるが、これは別の機会に述べることとして、ここには、主として私の行動範囲内で知り得た歴史的な事に限つて述べて行きたいと思う。

私が九年前に東京で開かれた国際癌會議の席で、ロンドンのガイズ病院のヘイウオード氏に巡り会つた事は、私に英國医学に関する目を開かせる契機となつた。それまで私の受けた講義によれば、特

中心はドイツにあり、アショフ、コツホ、エールリッヒ、レントゲン等が代表するような華々しい業績に彩られたドイツ医学はアメリカ人によつて学ばれ、それを新しく系統立てて、やがてアメリカ医学が世界に霸を称えるようになったという筋書きであった。しかし、ドイツやアメリカだけでなく、夫々の国には夫々の独自の医学が形づくられているものである。

私はガイズ病院を訪れた時、英國の医学にふれ、はじめて英國の臨床家が、特に臨床面で後世に永く残るような業績を

残していたことを知ったのだった。

いる。

ガイズ病院は一七二五年、富豪のトーマス・ガイが私財の一部を出して設立した病院で、一八〇〇年当時、入院患者は五〇〇であったと言われている。現在は、ロンドン大学医学部の学生と卒後の医師の教育のための関連病院となっている。すべての英国の病院と同様にガイズ病院も国立であって、超高層病院に生まれかわりつつある。ガイズ病院はロンドン橋の袂に立っているが、道一つ距てて聖トーマス病院が医学博物館として残されて

十九世紀の前半には、ガイズ病院に偉大な医師達が輩出した。例えば、慢性腎炎の別名ブライト病を記載したりチャード・ブライトは一八二七年、ガイズ病院における二十四例の観察と十八例の剖検例をまとめ、ネフローゼ、糸球体腎炎、萎縮腎に相当する三つの病型を分類し、フォルハルトとファールが一九一四年、腎疾患の病理に関する解説を行った。ブライトは當時ガイズ病院の講師で二十九才であった。

ブライトより九才年下の内科医、トーマス・ホジキンもガイズ病院で働いていた。ホジキン病については日本の国立がんセンターにおいても積極的に治療を行っているリンパ系の悪性疾患であるから、我々は少なからざる恩恵を受けていることになる。

ガイズ病院の医師が近代医学の為に貢献した事柄は多数あろうが、次の二つのこととは極めて重要であると考える。第一に、ブライトは化学者のジョン・ボストックと良いコンビを組むことができた。

ホジキンよりも五才若い内科医でトーマス・アジソンもガイズ病院の医師であった。ビールメル・アジソン貧血と呼ばれる悪性貧血の報告を行い、さらに、アジソン病と呼ばれる、皮膚口腔粘膜の着色、衰弱、貧血、低血圧、下痢、消化障害を症候とする疾患を報告した。



新築中のガイズ病院

トーマス・ホジキンは、ガイズ病院で働いていた。ホジキン病については、日本の国立がんセンターにおいても積極的に治療を行っているリンパ系の悪性疾患であるから、我々は少なからざる恩恵を受けていることになる。

トーマス・ホジキンは、ガイズ病院で働いていた。ホジキン病については、日本の国立がんセンターにおいても積極的に治療を行っているリンパ系の悪性疾患であるから、我々は少なからざる恩恵を受けていることになる。次に、サー・ア

ストレイ・パストン・クーパーという立派

な指導的外科医が大先輩としてガイズ病院にいたことを忘れてはならない。彼は解剖学に熱心で、ブライ特が腎疾患の病型を分類する際にも剖検を通じて良き指導をしたと言わわれている。

この辺で、いよいよ本筋に入ることになるが、ガイズ病院が爆発的に発展した十八世紀冒頭にクーパーは外科医として、彼の秀でた臨床眼によつて乳がんの観察を行つた。

月経周期に応じて乳がんが退縮したり増悪したりすることを報告し、一方、乳がん例の剖検によつて、乳がんが肺、卵巢、背椎骨に転移することを一八三六年に報告した。クーパーが七十四才で死去する五年前の報告であった。彼の剖検を

含めた生涯を通じて行つた観察によつて、乳がんの転移様式と、ホルモン依存性とが、ホルモンという概念のない当時に見破られていたことは、彼が大変な達人であったと言うことができよう。



アルベルト・シンジングル博士

西欧諸国において

では、恐らくその食餌の為と思われるが、かなり古くから乳がんは多発してゐるが、ホルステッドが根治手術々式を発表したのが一八九四年であり、マイヤー

一八九六年には、グラスゴーがん病院の外科医、ジョージ・ビートソンが、エディンバラ・メジコカイラージカル・サイエティ（内外科学会）に、二例の進行乳がん患者に両側卵管卵巢摘出術を行つたことを報告した。二例ともリンパ系の刺激剤と信じられていた甲状腺末が同時に投与された。患者は閉経前で何年も前から腫瘍を触れ、今は播種状になつて全身に拡がつていて。驚くべきこと

患者の卵巣を除去すると、がんは退縮して乳腺中に被包される結果になるかも知れない」と申し述べたと言われている。この示唆は彼によつて実行に移された訳ではないが、理論医学の天才的啓示であった。この当時、化学的メッセージヤーとしてのホルモンが体液を媒体として働くという、近代医学において確立された概念が全く不明の時代であつたことを考へると、誠に偉大な仮説であつた。

に、ビートソンの観察によれば、腫瘍は縮少または消失してしまったのであつた。ちなみにグラスゴーのリスターが石炭酸による無菌手術に成功したのが一八六五年のことであった。

その当時、すべての疾病は細菌によつてひきおこされるという考え方方が圧倒的に学会を支配しており、寄生虫である細胞内生物の「キヤンサー・ボディズ」が正常細胞にとりついて悪性の発育を生ぜしめるものと考えられていたのであつた。ビートソンはこの説に納得せず、細胞内封入体は單なる細胞破壊とか変性の結果にすぎないと考えた。「私は、がんの寄生体原因説は多くの点で不満足なものであり、そんなものを追求し、決して見付からぬものを求めて努力する等ということは、時間の無駄だと一再ならず感じている。理由は簡単、そんなものは存在しないからだ。」

また、当時、乳腺そのものと、その泌

乳機構は神経支配を受けていると信ぜられていた。ビートソンの若い時、M.D.の学位論文は羊の泌乳の研究であった。それをおし進めている間に、一つの器官は他の器官の分泌に対しても直接の神経支配を経ないで影響を与えるのではないかという考え方抱くに到つた。

「雌の卵巢と雄の睾丸には、神経が放れをもつて卵巣摘出術の効果に関する結果を集め、五十四例中、有効率が約三分の一といふ集計を報告した。彼はまた、どの例がうまく効果を發揮するかを予測する方法を研究中とのべた。この同じ努力は今でも続けられ、今日でも未解決である。



サー・ジョージ・ビートソン博士

一九三〇年代に入り、化学の進歩と共に、妊娠馬尿からエストラダイオールを、青年男子（兵隊）尿からテストステロンを抽出、精製して使用することができるようになり、はじめにテストステロンが進行乳がん治療に用いられ、一九三九年ウルリッヒとレーザーによって発表され、私は満足している」と書いたのはホルモンそのものを予見したものであり、更に驚嘆すべきことに、彼は卵巣が乳がんの原因の座を占めている旨の記載を残しているのである。

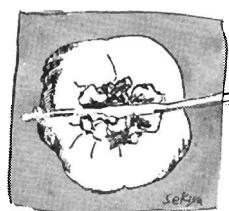
一九〇〇年、ロンドンのスタンレイ・ボイドは多くの外科医から、進行乳がんに対する卵巣摘出術の効果に関する結果を集め、五十四例中、有効率が約三分の一といふ集計を報告した。彼はまた、どの例がうまく効果を發揮するかを予測する方法を研究中とのべた。この同じ努力は今でも続けられ、今日でも未解決である。

一九三〇年代に入り、化学の進歩と共に、妊娠馬尿からエストラダイオールを、青年男子（兵隊）尿からテストステロンを抽出、精製して使用することができるようになり、はじめにテストステロンが進行乳がん治療に用いられ、一九三九年ウルリッヒとレーザーによって発表された。一九四四年、合成エストロジエンによる治療が英国のハドウによつて試みられた。一九四七年には、ガイズ病院のへ

ドレイ・アトキンスによって、部分副腎摘出術が行なわれたが、危険が大きいので中止された。一九五二年、コーキゾンの使用が可能になった時、米国のチャールス・ハギンスは両側副腎摘出術を安全に行い、進行乳がんに対する最強力治療を完成した。一九五三年、北欧のオリベクローナは下垂体摘出術をコーキゾンの助けによつて行つた。一九五五年、ニッセンマイヤーはコーキゾン投与療法の有効なことを報告した。

このようにして、化学の進歩によつて、乳がんの内分泌療法は急速に完成了のであるが、ハドウとハギンスはノーベル賞を授賞した。この物語に顔を出した最重要人物、サー・アストレイ・クーパー、ジョージ・ビートソンおよび、サー・ヘドレイ・アトキンスは共に英国の外科医であり、生涯を患者のより良き治療に捧げた根っからの臨床医であつた。
(国立がんセンター病院・外来部長)

※肖像画は熊岡口香



(Hayward: Hormone and Human Breast Cancer, Springer-Verlag および Modern Medicine 4 (12), 99, 1975 を参照した。)

横顔

参議院議員

石本しげる



ルのように多彩に色づき光り輝く。自己の信条をかたくなに守り貫き、現実に実らせたときのその人の心の喜びと満足感を色彩で表現するならば、この色あいではなかろうか。それはまさに、参議院議員、石本しげる先生の現在の心情であろう。対談中、先生は頬を紅潮させながら、「国立がんセンターには、看護の神體が正しく生きている。」と誇らかに話されました。

○



参議院議員会館を辞し、車はお堀端にさしかかる。あかね色に染った夕焼けが

お堀端の窓々に反射して美しく照り輝く。

先生が戦時中、中支、北支の各陸軍病院に従軍中に、また昭和二十二年より約三年間、国立山中病院勤務中、いろいろな体験から身につけられた理想的な看護理念を、昭和三十七年、国立がんセンター初代総婦長に就任されるや、当時の院長であった久留勝先生と実践に移されたのであります。石本先生の言葉をかりれば、医師には患者さんの病気の部門に対して思う存分腕をふるつてもらい、そのとの看護については看護婦が全責任をもつてお世話をさせていただくという、医

取材風景



師と看護婦のもちまえの両輪をきわめて上手にかみ合わせたのであります。『当時、久留院長より看護部門のすべてをまかせられたことが本当に仕合せでした』と述懐されましたが、こんなエピソードがあります。

昭和三十八年、国立がんセンター開院の翌年、厚生大臣より呼び出され、「二億円の赤字を出した」と叱責されたことがあるという。これは、患者さんを十分に安心させることの出来る看護体制が未だできていなかつたため、予定されたベッド数をひらけなかつたためであります。周囲からの圧迫と抗議に耐えながら、自己の信念を貫き通したその当時の苦悩を想いだされたのであらうか。『国立がんセンターはすばらしい病院である——卓越した専門医とみごとな看護体制のチームワークが確立されている——という世間の声をきくごとに、本当に嬉しい』ともらされた。

また、次のような苦心談も語られた。その当時の第一病棟は耳鼻科系の病棟で

あり、喉頭全摘などのため、発声のできない二十数人の患者さんが入院していました。開院してまもなく、石本総婦長が病棟をまわったとき、一人の患者さんが便箋に「インターフォンを押しても、看護婦がなにご用ですかと答え、しばらくして何も云わずに切れてしまう。とても悲しい」と書いたそうです。ところが看護婦はこのような経験をもちあわせていましたため、患者さんは必ず答えてくれるものと病棟婦長以下思いこんでいたそ

かつたため、患者さんは必ず答えてくれるものと病棟婦長以下思いこんでいたそ
うです。そこでこの病棟では、インター
フォンが鳴れば、すぐ走って患者さんの
もとへ行きなさいと教えられたという。
開院当時の珍事をなつかしそうに笑われ
ました。

また、国立がんセンター時代、最も嬉しかったことは、久留院長の還歴のお祝いの席、院長より職員へねぎらいの言葉が話され、最先に、国立がんセンターの看護婦諸君は正しい看護をしていると云われました。最先に云われたこともさりながら、親切でよい看護をしていると云

わられるより、正しい看護をしているとい
う言葉に感銘をうけ、そういっていただ
きたかつた言葉であると当時をなつかし
がられました。

田宮総長、比企総長、久留院長との開
院当時の想い出話がつづき、看護婦達を
正しくみてくださった院長さんと温情を
もつて接してくださった総長さんと一緒に
に仕事ができ、ほんとうに仕合せでした
とくり返えし話されました。

かしい。また、昨年の暮、さわめて多忙
な折にもかかわらず、がんセンターなど
国立施設の看護婦増員要求のため、とく
に今は亡き中原前総長以下、がんセンタ
ー幹部諸氏とともに、大蔵省、行政管理
庁に足繁く陳情を重ねていただいたこと
は、まだ耳新しいところであります。

最後に、国立がんセンターの看護婦さ
んに望みたいと次のように語られまし
た。

（北岡久三記）

留意され、病院を愛し、生きがいのある
病院をつくっていただきたい。

石本先生!! ますます健康であられ、
ご自分の信念を貫かれ、国民生活に多く
の実りを与えてくださることを私達は固
く信じて、今後の先生の活躍を期待す
る、ご声援をお送りします。

昭和四十年、がんセンター総婦長を辞
し、参議院議員に初当選、昭和四十六年
六月に再選され、現在に至っておられる
が、この間、厚生政務次官、医療対策特
別委員長、政策審議会副会長を歴任し、
また一方、日本看護連盟顧問として、社
会福祉問題はもとより、看護従事者（保
健婦、助産婦、看護婦、准看護婦）の教
育の向上と待遇の改善、労働条件の緩和
など、国民生活に直接寄与する問題に対
し、積極的に取り組まれ、その成果は輝

（一）看護婦としての使命感をしつか
り守つてほしい。労働条件などの向上の
ために戦うことも時により必要である
かもしれないが、ますます大きくなる國立
がんセンターとともに、わが道を忠実に
守つて下さい。

（二）医師と仲良く、とくにけんかし
ながら仲良くしていただきたい。これは
久留先生がよく云われた言葉で、矛盾し
たことのようですが、最も発展してゆく
ことのできる意識であります。

（三）すべての職員の皆様が、健康に



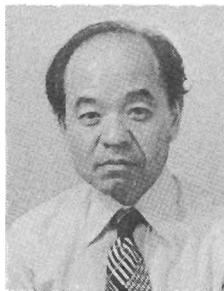
質問
コーナー

(10)

☆本号の解答者

国立がんセンター病院
特別保護病棟医長

飯塚 紀文 先生



本号では、老人に多いといわれる食道がんについて、専門医である飯塚紀文先生に、五つの質問へ解答していただきました。読者のみなさん、別記の「質問のしおり」によつてあらゆるがんについての質問をお寄せ下さい。

食道がん

問 食道がんとはどのような病気で、どの位あるものでしょうか。

(秋田市、農業、55歳)

答 食道は咽頭の下部と胃とを結ぶ管状の細長い臓器で、長さは約25センチメートルです。食道が

本号では、老人に多いといわれる食道がんについて、専門医である飯塚紀文先生に、五つの質問へ解答していただきました。読者のみなさん、別記の「質問のしおり」によつてあらゆるがんについての質問をお寄せ下さい。

問 何歳位の男女に多いのでしょうか。
またかかりやすい人はありますか。

(杉並区、主婦、40歳)

私はこの管の何処にでも出来るわけですが、中部食道に最も多くみられます。食道にがんが出来ますと、食道の内腔に向つて増殖するところに、食道壁の伸展性を妨げるために食物の通過障害を起します。初期には肉などの固い物を食べた時にかかるだけですが、次第に食事の度につかえるようになります。最後には水も通らなくなりま

す。胃から下の内臓は健康なわけですから、お腹は空くのに食べ物が入らないという悲しむべき状態になります。従つて、どんどん瘦せて行きます。

食道がんがどの位あるかといいますと、日本の統計では年間に五千人の人が食道がんで死亡しております。これは胃がんの十分の一ですが、胃がんに比較して早期に発見される率が低いので、注意が必要です。

問 どうな症状があつた時、食道がんの検査を受けたら良いですか。

(北九州市、教員、50歳)

ます。この順序で、実際に治療を受けていた時代はこれより少し若いのです。八十歳代、六十歳代、五十歳代の順です。実際に治療を受けていた時代は食事の際につかえる感じや、たら良いのですか。

答 食道がんの早期の症状としては食事の際につかえる感じや、特に熱いものや冷たいもの、酸い物等を食べた時にしみる感じがあります。その他に背部の痛み等があります。併しこれらは食道がん

になると、五十歳を過ぎた男性が多いので、このような人は注意が必要です。どのような人がかかりますと、十本以上吸う人がかかりやすいと、いう結果が統計から出ておりまして、また熱い茶粥を食べる地方に多いとか、良く喫まずに早食いする人に多いとか、熱いお茶を飲む人に多いとか、いわれております。

に特有の症状ではなく、食道炎などの良性の病気の際にもみられるわけですから、これらの症状があるから食道がんだときまつたものではないのです。併し、これらの症状があつたら食道の検査を受けた方が良いわけです。異常がなければ必配ないし、若し異常が認められたにしても、早期ですから治ります。さらに症状がすすむと食べ物がつかえるようになります。

食道がんの検査にはX線検査と食道鏡とがあります。X線検査はバリウムを飲んで写真をとるのでですが、最近は細かい病变まで発見出来るようになりました。また食道鏡は胃カメラのような機械ですが、これを口から入れて覗くのです。食道は口から一番近い臓器ですので見易いし、細かいものでも発見出来るので非常に有効な方法です。同時に組織や細胞をとって来て調べられるので、病名を決定することができます。

てある病院で受け、少しでも異常があったら食道を専門に治療している病院に行って精密検査と治療を受けたら良いと思います。食道がんの治療は仲々難しく、専門の知識を必要とするからです。問 食道がんの治療について説明して下さい。

(大阪市、主婦、35歳)

答 食道がんの治療としては外科手術と放射線治療とが主として行なわれております。

外科手術では病巣をふくめて食道を広範に切除し、同時にリンパ節も出来るだけ広範囲にとります。切除した後に代用の食道を作ることですが、主として胃を使います。食道の残っている部分と胃とを吻合するのです。胸腔の中で吻合する場合には外から見えませんが、胸骨の上の皮下を通じて胃を挙上して、頸部の食道と吻合した時には、外から胃が見えます。食事をすると、胃が拡張するのが見えるわけです。これら吻合のし

方は、その人の体力や病気の質によつて定めます。手術後十日程は、お口から食事が出来ないので、栄養補給のために空腸に栄養管を挿入します。

放射線治療はコバルト60カリニックを使います。食道がんには、放射線は相当の効果を上げます。週に五日照射して六ヶ月間かかることがあります。放射線だけで治療する場合もありますが、現在では放射線と手術を組み合わせて治療する場合が多いのです。放射線で或程度

激物は三ヶ月間は避けた方が安全です。身体は良く動かして筋肉に力をつけるようにします。安静にばかりしていますと、身体が鈍ります。ほとんどの場合、治療前の社会活動に復帰出来ます。併し治療後始めての冬には、風邪をひかないよう充分注意をし、若し風邪をひいたならば、早期に治療して肺炎などの重い病気にならないよう気をつけましょう。

合が多いのです。放射線で或程度の効果を上げてから手術したり、手術の後に放射線をかけたりして、より一層の効果を上げております。

合が多いのです。放射線で或程度の効果を上げてから手術したり、手術の後に放射線をかけたりして、より一層の効果を上げております。

質問のしおり
がんに関するあらゆる質問
を、文書でお寄せ下さい。
字数は八百字以内です。
かならず、住所、氏名、職
業、年齢を記入して下さい。
あて先、東京都中央区築地
五の一、国立がんセンター
内「加仁」編集事務局

＼がんに関するあらゆる質問
を、文書でお寄せ下さい。
字数は八百字以内です。
＼かならず、住所、氏名、職
業、年齢を記入して下さい。
＼あて先、東京都中央区築地
五の一、国立がんセンター
内「加仁」編集事務局

- 45 -



★がん研究振興会

理事会開催

財団法人がん研究振興会では、昭和五十一年度第二回理事会を、三月二十九日に経団連会館で開催し、左記議件について審議した。

- ①昭和五十一年度事業経過報告について
- ②昭和五十一年度収支予算執行見込について
- ③昭和五十一年度事業計画並びに収支予算案について

- ④田宮記念賞受賞者に対する副賞について
- ⑤募金状況、その他について

提出の五議件については全議件承認され
た。

尚当日の出席者は、次の方々である。

理事長藤井丙午、常任理事花村仁八
郎、理事石川七郎、川上六馬、長沼弘
毅、杉村隆、島田晋



理 事 会 風 景

★第八回がん研究助成金の贈呈

昭和五十一年三月二十九日、経団連会館において、本会の第八回がん研究助成金を、藤井理事長から、別表の方にたにそれぞれ贈呈した。



助 成 金 贈 呈



★ 故 小松正三氏夫人

肺がん研究のためご寄付

小松美代さんはご主人、小松正三氏（六十一歳）が肺転移がんのため死亡されたので故人の意志により特に肺がん研究のために使用するよう百万円を当会に寄付された。

別表
50・51頁



理事長挨拶

★ 稲垣 多鶴子さんご寄付

稻垣多鶴子さんはご主人（群馬県工業試験場長）稻垣良穂氏（五十八歳）が食道がんで死亡されたので研究の一部にと充てるよう百万円を寄付された。



稻垣夫人より贈呈をうける榎本事務局長

★ 秋口政徳氏

大腸がん研究のためご寄付



左より榎本事務局長、小山先生、秋口政穂氏、秋口夫人

秋口政徳氏はご尊父秋口広吉氏（七十四歳）が胃がんのため死去されたので小山靖夫先生紹介の下に大腸がんの研究に使用されるよう当会に百万円を寄付された

★住友金属工業株式会社顧問

福地 豊氏ご寄付



福地豊氏より贈呈をうける。高谷先生、榎本事務局長

元日本開発銀行総裁 福地豊氏はご令室福地富子様（四十九歳）が胃がんのため逝去されたので、高谷医長を通じ研究費の一部を使用するよう当会に百万円を寄付された。

★日本般船装備株式会社社長

宮崎国雄氏ご寄付



宮崎国雄氏より贈呈をうける島田理事

管野儀作氏はご令室 管野あき様（七十歳）が脳腫がんにて亡なられたので研究費の一部として使用するよう三百万円を当会に寄付された。

★管野儀作氏ご寄付

佐久間銀之助氏ご寄付

★ブックス宣伝社社長
佐久間銀之助氏ご寄付

佐久間銀之助氏はご子息佐久間一夫氏（二十八歳）が白血病リンパ腫にて死亡されたので白血病の研究に使用するようご尊典の一部を研究費として使用するよう二百万円を寄付された。

宮崎国雄氏はご令室宮崎芳江様（五十一歳）が肝臓がんのため逝去されたので研究費の一部を研究費として使用するよう二百万円を寄付された。

佐久間銀之助氏はご子息佐久間一夫氏（二十八歳）が白血病リンパ腫にて死亡されたので白血病の研究に使用するよう木村副院長紹介の下に二百十二万七千円をご寄付された。



佐久間氏より贈呈をうける島田理事、右は木村副院長



山星暢夫氏より贈呈をうける

★ 東光電気株式会社副社長
山星暢夫氏 ご寄付

山星暢夫氏はご令室 山星勇美子様（六十七歳）が肝臓がんのため死亡されたので研究費の一部として使用されるよう百万円のご寄付があつた。

国立がんセンター病理室長 佐野量造氏（五十二歳）は腎不全のため亡くなりました。

夫人の民枝様より研究費の一部として使用されるよう当会へ五十万円のご寄付がありました。

★ 国立がんセンター職員
佐野民枝氏 ご寄付

★ ご寄付受領

国立がんセンター総長、当会理事 中原和郎先生は昭和五十一年一月二十一日、心筋硬塞にて国立がんセンター病院に於てご逝去されました。茲に謹んで哀悼の意を捧げます。このたび夫人の中原ドロシイ様より当会に対し多額のご寄付がありました。当会に於きましては、国立がんセンターの方々や、振興会の役員とも種々協議して、できるだけ有効に使致したいと考えております。

第八回 がん研究助成金交付者名簿

氏 名	所 属	施 設	(研究費)	研 究 課 題
石引久弥	慶應義塾大学医学部外科学教室 講師	名古屋市立大学医学部 第一病理学 教授	100	抗癌剤の血清蛋白結合特性および荷電特性を利用した腫瘍組織 移行促進効果に関する研究
伊東信行	東京都臨床医学総合研究所 生化学部 部長	大阪大学微生物病研究所 研究部長	100	膀胱癌の発生と発育に関する実験的研究
小野哲生	東京都臨床医学総合研究所 生化学部 部長	大阪大学微生物病研究所 研究部長	150	酪酸による癌細胞再分化の機構
加藤四郎	大阪大学微生物病研究所 教授	冲中記念成人病研究所 研究部長	100	マレック病リンパ腫細胞の腫瘍特異抗原に関する研究
佐々木琢磨	国立がんセンター研究所 化療法部 実験化学療法室 室長	一〇〇	悪性腫瘍産生酵素(アミラーゼおよびアルカリホスファターゼ)の研究	海洋生物由来制癌物質の研究
北村元仕	癌研究会癌研究所実験病理部 部長	一〇〇	魚類を用いた発癌——その基礎と応用	担癌生体免疫能に対する高カロリー経靜脈栄養の影響
田島知三	東海大学医学部外科学教室 助教授	一〇〇	癌化学療法における免疫療法	
高山昭三				
中尾功	癌研究会付属病院 長			
	一五〇			

南原利夫	東北大学薬学部 教授	一〇〇	アンドロゲンのイムノアッセイに用いる特異的抗体調製法の開発
藤野忠彦	国立ガンセンターホスピタル放射線診断部呼吸器科研究員	一〇〇	発癌性多環芳香族炭化水素化合物の肺における代謝過程に関する研究
三井宏美	東京都臨床医学総合研究所 細胞生物研究部長	一〇〇	腫瘍特異表面抗原の細胞生物学的研究

* 免税の取扱いについて

財団法人がん研究振興会は、試験研究法人としての取扱いを厚生大臣から認可されている財団です。従って、本会に寄付または賛助された金額につきましては法人、個人を問わず免税の対象となります。また、50・2・12付で、厚生大臣から、相続税免除の法人であることを認められました。その証明書を必要とする方は、本会の事務局までお申し出下さい。



がん研究振興支援の レコードのお知らせ

シェール西ドイツ大統領夫妻の提唱によるクラシック音楽のLPレコードが発売されました

この七月一日に、ポリドール株式会社から『オペラ・スター・チャリティーヴ』という、クラシック音楽のLPレコードが発売されました。このレコードは、対がん活動への資金援助のために西ドイツで制作されたチャリティーレコードです。

このレコードは、一九七四年八月西ドイツのドイツ対がん協会総裁である、Dr.ミルドレッド・シェール大統領夫人が、皆様も良くご存じの大指揮者、カール・ベームの八十歳誕生日パーティーで、発案したもので、そこに出席していた著名な音楽家たち全員の賛同を得、間もなく一枚のLPレコードという形で実現をみることになったということです。

既にこのレコードが発売されている西ドイツでは、提案者であるシェール大統領ご夫妻がまるで自分のことのように、このレコードのためには労を惜しまず協力されました。まずレコードのジャケットにご夫妻の写真入りでメッセージを寄せられ、新聞・雑誌にも特別のインタビューをし、更にテレビでも特別にこのレ

たり、一九七四年から七五年にかけて、ヨーロッパの各地で、多忙な音楽家たちのスケジュールの合間にをぬって、歌劇の前奏曲やアリアなどの名曲九曲を録音したということです。カラヤンやベームをはじめ、このレコードで演奏しているのは、世界でも折りの音楽家たちばかりですが、その全員が全く無報酬でこのレコードの実現に協力したのだそうです。



baum夫人 ヴァルター・シェール 大指揮者
西ドイツ大統領 カールバーム氏
baumの孫 Dr. ミルドレッド・シェール
カティ 大統領夫人

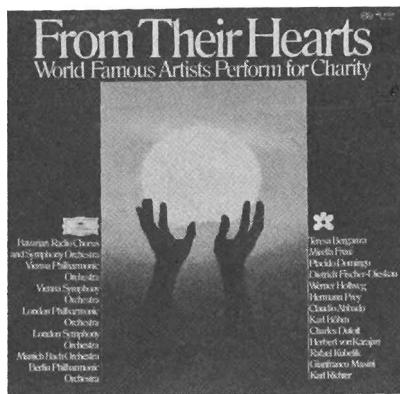
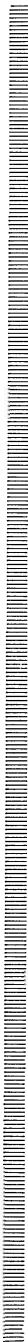
1974年8月、ザルツブルク市主催の
カール・baum 80歳の記念パーティーで

コードのPRをしたとのこと
です。また発売に先立つて、
協力してくれた音楽家たちを
招いての、官邸でのレセプシ
ョンを開くなど、大変な力の
入れようで、お国柄の違いと
は言え、日本ではとても考え
られないことばかりです。

日本では、ポリドール株式
会社が発売の労を取られまし
た。レコードのジャケットに
は、当振興会の藤井丙午理事
長がメッセージを寄せてお
り、ジャケットの表の写真も
日本で撮影された魅力的なも
のです。レコードの解説や、
歌詞の訳をなさった音楽評論
家の方たちは、原稿料なしで
このレコードの発売に協力さ

れました。こうして出来上がったレ
コードは一般のレコード店で発売さ
れ、一枚あたり、価格の二五%が、
当振興会と日本対ガン協会とに半額
ずつ寄付されますが、この額はレコ
ードの発売に伴う純益を越えている
とのことです。全く利益の出ないレ
コードということで発売の実現まで
には、西ドイツ本社との条件交渉な
ど様々な難問があつたようになります
が、この七月一日に西ド
イツに次いで世界で二番目に発売の
運びとなつたわけです。

ポリドール株式会社に対しても深く
お礼を申し上げると同時に、読者の
皆様のご協力によつて、このレコー
ドが一枚でも多く売れ、がん研究や
更にはがんの征兆のための基金とな
ることを期待したいと思います。



オペラ

スター・チャリティー

発売のお知らせ

ボリドール株式会社

MG-1007
¥2,600

このレコードを発売するに当たって、ですから、なおさらです。ご協力を頂きました日本対ガン協会、及び、がん研究振興会に対して厚くお礼申し上げます。このチャリティー・レコードを通じて、がんの研究の推進、対がん社会活動に少しでもお役に立てるとなれば、それは私どもにとって望外の喜びです。

私どもにとって大変嬉しいことがもう

一つあります。それは、音楽界という、どちらかといふときらびやかで、余り私たちの実生活とは縁がないように思われるがちな世界から、それもその世界の最高の人たちから、この素晴らしいレコードがプレゼントされたということです。しかも、このレコードに関係したすべての音楽家たちは、「がんで苦しんでいる人たちのために」ということは勿論ですが、それ以上に、「がんという病気を自分自身の問題としてとらえて」積極的にこのレコードの実現のため参加したというの

こうした、芸術家たちの素朴な善意のこめられたレコードが、その所期の目的を達するとともに、このレコードによってクラシック音楽（特にオペラ）が現在より一層多くの人たちに身近なものとなり、愛されるようになることを願わずにいられません。

レコードの詳しい内容は末尾に掲げてあります。クラシック音楽を余りお聴きにならない方には、馴じみのない曲が多いかも知れませんが、▲カルメン▼の前奏曲や、スペインの歌姫ベンガンサの歌うハバネラは、誰でも「ああ、あの曲」とおわかりになるでしょうし、▲フィガロの結婚▼序曲や、▲ローランド・グリン▼第三幕への前奏曲も大変有名な曲です。また、演奏しているのは、クラシック音楽に全く関心のない人でも良く述べる、現代音楽界最高の、二人の巨匠指揮者

ヘルベルト・フォン・カラヤンとカール・ベーム、その二人が指揮するベルリン・

フィルハーモニー管弦楽団とヴィーン・

フィルハーモニー管弦楽団、イタリア・オペラの代表的テノール、プラチド・ド

ミンゴ、ドイツ・リードの世界では並ぶものはないバリトン、ディートリッヒ・

フィツシャー＝ディースカウをはじめと

して、歌手・指揮者・管弦楽団・合唱団

のすべてが、現在の世界クラシック音楽界の最高の顔ぶれです。これだけのスターたちが一枚のレコードに顔をそろえることは、これまでにもありませんでした

し、今後も不可能でしょう。しかも、この

のレコードの録音は、彼らの古い録音を寄せ集めたものではなく、このレコードのために全く新しく、無報酬で録音されたものなのです。

このクラシック音楽の夢の共演のレコードが、一人でも多くの方に楽しんで頂ければ幸です。

● 収録曲目

ニー管弦楽団

歌劇《コシ・ファン・トゥッテ》から

「ご婦人方よ」(モーツアルト)

プライ(バリトン)

ベーム(ヴィーン・フィルハーモニ

歌劇《ドン・カルロ》から

ロドリー(ヴェルディ)

ドミニゴ(テノール、バリトン)

アバド(ロンドン交響楽団)

「わたしひとりが」(ベルリーニ)

フレーニ(ソプラノ)

マシーニ(ヴィーン交響楽団)

歌劇《テンダのベアトリーチェ》から

「わたくしひとりが」(ベルリーニ)

アバド(ロンドン交響楽団)

歌劇《フィガロの結婚》序曲

(モーツアルト)

アバド(ヴィーン・フィルハーモニ

ー管弦楽団

歌劇《イドメネオ》から

「海のほかにも」(モーツアルト)

ホルヴェーク(テノール)

デュトワ(ロンドン・フィルハーモニ

歌劇《カルメン》から

「鎖につながれても」(ヘンデル)

フィツシャー＝ディースカウ(バリトン)

リヒター(ミュンヘン・バッハ管弦

楽団

歌劇《カルメン》から

前奏曲とハバネラ「恋は野の鳥」

(ビゼー)

ベルガンサ(メゾ・ソプラノ)

クーベリック(バイエルン放送交響

楽団・合唱団

歌劇《ローエングリン》第三幕への前奏曲

(ワーグナー)

ベーム(ヴィーン・フィルハーモニ

ー管弦楽団

ご寄付
芳名録

当協会に寄付をいただいた方々の
芳名をご披露いたします。本号では
四十九年のつづきと、五十年の一部
を掲載いたしました。芳名の敬称は
省略させていただきます。

財団法人がん研究振興会

東京都江戸川区
世田谷区

富樫吉郎
家吉綾子

五十年

横浜市
鎌倉市
小平市

岸本充雄
土屋絹子
柳沼佑治

鷗殿愛子
中村ミツエ
唐島静子

北海道札幌市
調布市

白井貞雄
水谷稻子
小松美代

四十九年つづき

東京都世田谷区

川上
竹内
細矢
土井
高橋
山下

東京都台東区
北区
千代田区
所沢市
毎日新聞東京社会事業団
田中
増田
長沢
公子
静江

富士宮市
東京都中央区
世田谷区
目黒区
新宿区

唐島
白井
水谷
稻子
小松
美代
鷗殿
愛子
中村
ミツエ
唐島
静子

東京都墨田区
大田区
香川県大川郡
東京都渋谷区
田無巾
砂田秀子
青山政雄
樋口千代
藤沢市
前山支那子
ウ・マウンエ
東京都千代田区
和歌山市
東京都足立区
東京都世田谷区
NHK厚生文化事業団

町田市
東京都江戸川区
川崎市
東京都千代田区
大阪府箕面市
東京都杉並区
佐藤圭子
一
田島寿雄
丸山恵美子
阿部章
副島泰
加藤晃
井手テイ
東京都文京区
川崎市
武藏野市
小平市
武藏野市
東京都文京区
堀江勇治
宮垣喜久子
鹿児島重治
高木静江
青沼笑子
江口鈴子
石井甲二
唐島静子
白井貞雄
水谷稻子
小松美代
鷗殿愛子
中村ミツエ
岸本充雄
土屋絹子
柳沼佑治

東京都千代田区
和歌山市
東京都墨田区
東京都墨田区
東京都大田区
香川県大川郡
東京都渋谷区
田無巾
砂田秀子
青山政雄
樋口千代
藤沢市
前山支那子
ウ・マウンエ
東京都千代田区
和歌山市
東京都足立区
東京都世田谷区
NHK厚生文化事業団

東京都江戸川区
世田谷区
小平市
武藏野市
東京都文京区
川崎市
武藏野市
小平市
武藏野市
東京都文京区
堀江勇治
宮垣喜久子
鹿児島重治
高木静江
青沼笑子
江口鈴子
石井甲二
唐島静子
白井貞雄
水谷稻子
小松美代
鷗殿愛子
中村ミツエ
岸本充雄
土屋絹子
柳沼佑治

鎌倉市	小金井市	平野 正子
宝塚市	藤田栄一郎	四方洋一郎
武蔵野市	宇留野虎男	円下 量夫
府中市	大井 秀子	大西 言子
船橋市	濱野 雅人	清水もりえ
東京都品川区	千代田区	新宿区
東京都練馬区	取手市	近藤 貞夫
三鷹市	横須賀市	古川 智喜
市川市	市川市	森 喜代
東京都大田区	浦和市	松生 美保
	名古屋市	斎藤 千代
	愛知県一宮市	平田 郁子
	東海学園女子短期大学	金野 信子
名古屋市	ノートルダム女学院	ジョン・シールズ
京都市	南山短期大学	

富士宮市	貿易研修センターハウス
甲府市	山梨英和短期大学
富山市	内田 晃
静岡市	ディヤング
大阪市	コスマ(株)
相模原市	大宮市
名古屋市	中屋 重和
東京都渋谷区	大和市
奈良県生駒郡	ジヨン・シールズ
大阪市	鈴木 昭三
東京都江戸川区	大熊 耕作
川崎市	中村清之介
東京都渋谷区	増喜 義久
大田区	浅野 光雄
千代田区	有木喜代子
名古屋市	森川 繁
名古屋市	島田 七郎
大田区	木下 栄
千代田区	中田 匠彦
堀川中学校	堀川中学校
富山市	ジョン・シールズ
富山市	相山短期大学
川崎市	大石久美子
東京都世田谷区	城倉りつ子
東京都世田谷区	富山女子短期大学

東京都世田谷区	村越八重子
福山市	門田 正靖
福岡市	筑紫女学園短期大学
新座市	児玉 正子
横浜市	高井ミツ子
東京都北区	藤巻 久子
渋谷区	北井美恵子
板橋区	森川 卓三
千代田区	(財)東京善意銀行
鎌倉市	東 愛子
東京都目黒区	井上 栄子
中野区	志賀みどり
川崎市	江村 潤朗
千葉市	秋元登志子
横浜市	竹村 昭子
藤沢市	山田 悅子
東京都大田区	斎藤 浩子
港区	デュポン・フライースト
世田谷区	ミドリ無線(株)

市川市	南部	和夫
東京都	匿	名
名古屋市	ジョン・シールズ	
愛知県西春日井郡	トヨタ自動車販売(株)	
豊田市	月山	秀夫
名古屋市	十倉	宗晴
相模原市	久保	陽
東京都	東京アメリカンセンター	
奈良県大和郡山市	米国大使館職員「葵会」	
東京都杉並区	日本会話学院	
文京区	平岩 弘光	
練志野市	峰山 義教	
東京都北区	井上早紀子	
静岡市	来 豊平	
名古屋市	黒沢 佐平	
西宮市	田ノ本 栄	
東京都世田谷区	デイビング	
稻垣多鶴子	佐藤 彰一	
船橋市	市田 正弥	
東京都世田谷区		

新座市	秋口	松下ゆき江
府中市	杉並区	
大田区	大塚	和子
世田谷区	後藤	勝
埼玉県北葛飾郡	大野	宗一
東京都千代田区	上原	貞子
千葉市	舛田	敏彦
越ヶ谷市	潮田	昭一
横須賀市	平野	典子
逗子市	小野	良
東京都渋谷区	曲渕	俊介
NHK厚生文化事業団	永盛	三智也
世田谷区	杉村	勇吉
世田谷区	今井	恭子
江戸川区	村田	隆雄
千代田区	野崎	恭弘
読売光と愛の事業団	古川	敏子
文京区	松本	樋口
西多摩郡	茂男	東村山市
東京都千代田区	良範	

東京都中野区	宮本	鈴木
杉並区	岡田	直一
北区	小山きぬ子	小倉しづ子
板橋区	泉	楳子
横浜市	太田	和徳
下関市	花井	道子
川崎市	工藤	志郎
東京都世田谷	福地	豊
杉並区	村治	泉
大坂府茨木市	高田	治雄
東京都千代田区	高田平八郎	
中野区	矢倉	
和歌山県西牟婁郡	石光以登子	
東京都豊島区	伊奈	
横須賀市	小川	礼子
神奈川県三浦郡	山田	栄一
東京都目黒区	きぬ	
田中ひかる		

**財團法人がん研究振興会役員
評議員名簿** (五十音順)

***役員**

会長	岩佐 凱美	(經濟団体連合会副会長)
理事長	藤井 丙午	(參議院議員)
常任理事	花村仁八郎	(經濟団体連合会副会長)
理事	芦原 義重	(関西電力株式会社会長)
理事	石川 七郎	(国立がんセンター総長)
理事	市川平三郎	(国立がんセンター病院長)
理事	事川上 六馬	(元厚生省医務局長)
理事	木川田一隆	(東京電力株式会社会長)
理事	小林節太郎	(富士写真フィルム株式会社会長)
理事	佐伯 勇	(大阪商工會議所会頭)

***評議員**

理監	理監	理	理	理	理	理	理	理	理	理	理
事	事	事	事	事	事	事	事	事	事	事	事
矢田 恒久	堀田 庄三	(三菱商事株式会社会長)	藤野忠次郎	赤崎 兼義	(愛知県がんセンター研究所長)	根津嘉一郎	島田 晋	鈴木 治雄	(日本化學工業協会会長)		
(第一生命保険相互会 社会長)	(住友銀行会長)	(三菱商事株式会社会長)	今永 一	(愛知県がんセンター病院長)	(大阪大学名譽教授)	(東武鉄道株式会社社長)	杉村 隆	宮澤 嘉一郎	(朝日麦酒株式会社社長)		
事	事	事	事	相良 貞直	(日本対ガン協会参与)	佐藤保三郎	市川 上六馬	佐藤保三郎	(麒麟麦酒株式会社社長)		
田実 渉	(三菱銀行会長)	須田 正己	(愛媛大学医学部長)	千田 信行	(大阪府立成人病センター所長)	延命 直松	(大阪商工會議所会頭)	方斎(住友金属工業株式会社社長)	(大阪商工會議所会頭)		
(日本生命保険相互会 社社長)	(日本生命保険相互会 社社長)	(慶應義塾大学医学部名譽教授)	(慶應義塾大学医学部名譽教授)	日比野 進	(国立名古屋病院長)	佐藤保三郎	(麒麟麦酒株式会社社長)	横山 通夫	(中部電力株式会社会長)		
授				山下 久雄	(慶應義塾大学医学部放射線科教			三浦 懲	(株式会社島津製作所会長)		

学界

赤崎 兼義	(愛知県がんセンター研究所長)
今永 一	(愛知県がんセンター病院長)
梶谷 鑑	(癌研究会付属病院長)
木村禕代二	(国立がんセンター病院副院長)
小山 善之	(国立病院医療センター病院長)
相良 貞直	(日本対ガン協会参与)
島田 信勝	(慶應義塾大学医学部名譽教授)
須田 正己	(愛媛大学医学部長)
千田 信行	(大阪府立成人病センター所長)
日比野 進	(国立名古屋病院長)

財界

延命 直松	(朝日麦酒株式会社社長)
佐藤保三郎	(麒麟麦酒株式会社社長)

あとがき

の「横顔」、英國医学についての
熊岡爽一氏の「あしおと」、読者

（複）
しくご支援をお願いします。

「加仁」編集同人

昭和五十一年八月二十日印刷
昭和五十一年八月二十五日発行

發行人 藤井丙午
編集人 高谷治

発行所

東京都中央区築地五ノ一ノ一

国立がんセンター内

財団法人がん研究振興会

雷譜(5) 一五二(七表)
郵便番号 一〇四号

製作 株)メジカルニュース社

卷之三

編集事務局

本号では、鼎談にかわって一国立がんセンター運営部長大いに語る」とを掲載することができました。ができます。国立がんセンター設立から来年で十五周年を迎えるにあたり、八人の歴代運営部長によるがんセンターの経過や将来について、誠に有意義なお話を伺うことができたわけです。

巻頭言には、創刊以来、毎号欠かさず長沼弘毅先生の玉稿を掲載させていただいています。あるその文章は、格調の高いことと編集方針としている本誌の性格にマッチするもので、編集関係者一同感謝しているところです。

その他、創刊号にお書きいた辺漸氏の「随筆」がんを克服され地域医療に活躍される田沼顯竜氏の「冬瓜の記」、国会で医療政策に情熱を燃やす石本しげる先生

都合により本号では、「加仁サロン」「がんセンターめぐり」「作品紹介」を休みました。次号には、一般的の社会人の方がたです。是非とも掲載したいと思っています。

本誌の対象としている読者層門のことがらについては、素人にならぬよう編集するようにつなげています。ソフトな記事をたくさん掲載原稿についても、医学上の専門のことから、人間の心の内側まで幅広くお届けします。ソフ

てな記事をたくさん掲載した「加仁」を、らくなる気持でめくり、その中から、がんでも格調のある雑誌にしたいといつての「なにか」を知っています。ただく、というのが、本誌の考え方です。ただく、といふところです。ソフトで、しかも格調のある雑誌にしたいといふのが、編集委員たちの一一致した考え方なのです。また読者の皆さまます。編集・発行について、よろ

加

仁

第十二号

昭和五十一年八月二十日印刷
發行人

